

令和2年度第1回献血推進調査会の審議結果について

- ・令和2年度第1回献血推進調査会の審議結果について（概要） 1

【献血推進調査会 当日資料】

- ・資料1-1 令和元年度供給・献血実績等について（日本赤十字社提出資料） 3
- ・資料1-2 献血推進の施策について（厚生労働省の取組） 23
- ・資料1-3 令和元年度の献血実績の評価について 26
- ・資料2 献血推進2020の評価について 28
- ・資料3 「はたちの献血」キャンペーンのあり方について 30
- ・参考資料1 献血の現状（日本赤十字社提出資料） 44
- ・参考資料2 若年層の献血者について（日本赤十字社提出資料） 56

令和2年度第1回献血推進調査会の審議結果について（概要）

1 開催日時・場所

令和2年9月10日（木）16:00～18:00 新橋会議室8E会議室（Web会議）

2 出席者 ※五十音順、敬称略

○献血推進調査会委員（15名）

石田 明、海老名 英治、喜多村 祐里、柑本 美和、近藤 翔太郎、佐々木 司、武田 飛呂城、田中 純子、田中 里沙、濱口 功、根岸 久美子、花井 十伍、松本 剛史、宮川 政昭、村井 伸子（欠席 衛藤 隆）

○日本赤十字社（2名）

松田 由浩、鹿野 千治

3 議事概要

○議題1 令和元年度の献血実績の評価について

日本赤十字社より令和元年度供給・献血実績の報告及び事務局より令和元年度献血推進施策について報告を行い、委員からのご意見を踏まえて令和3年度献血推進計画を策定することとされた。

（委員からの主なご意見）

- ・Withコロナの環境で、どのような広報が効果的かを考え献血推進計画を策定することが望ましい。
- ・献血実績のデータについて都道府県の人口規模を考慮した分析を行い、都道府県ごとに好事例を見つけ横展開するのに役立てると良い。

○議題2 「献血推進2020」の評価について

事務局より「献血推進2020」の進捗状況について報告を行い、次回の中期目標は「献血推進2025」とし、達成項目については同様とするものの、目標値について必要に応じて見直しを行うとともに、必要な献血者数に関する新たな推計を基に設定することとされた。

（委員からの主なご意見）

- ・「献血推進2020」の項目について、データを集め効果測定を行うことが望ましいが、献血者へのアンケート等の活用も検討していただきたい。
- ・献血セミナーの実施率と10代献血率の地域分析を行うなど、取り組みの評価を行なながら、広報活動に利用する必要がある。

○議題3　その他

事務局より「はたちの献血キャンペーンのあり方について」という議題で、血液対策課で行ったアンケート結果、法務省事務局検討会報告書の内容の説明を行い、キャンペーンの名称やあり方についてご議論いただいた。

(委員からの主なご意見)

- ・「はたちの献血」は認知度が高く、キーワードとしては残した方がよい。
- ・時代に合わせて「はたち」の意味や位置づけ、キャンペーンのあり方についてアンケート等を行いながら検討すると良い。

令和元年度供給・献血実績等について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

-
- 1 製造実績
 - 2 供給実績
 - 3 献血実績
 - 4 献血血液確保に係る取組について
 - 5 新型コロナウイルス感染症に伴う対応について
 - 6 まとめ

1 製造実績

種別	献血推進計画における 製造見込量	製造量(実績)
赤血球製剤	51万リットル	51.4万リットル
血漿製剤	26万リットル	25.5万リットル
血小板製剤	17万リットル	17.1万リットル

・原料血漿

需給計画における 確保目標量	確保量 (実績)
112.0万リットル	114.4万リットル

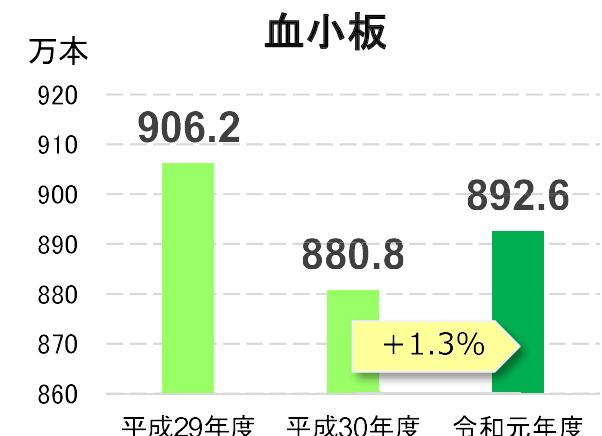
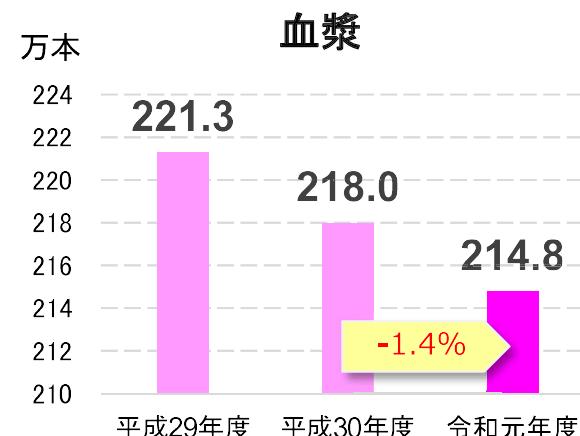
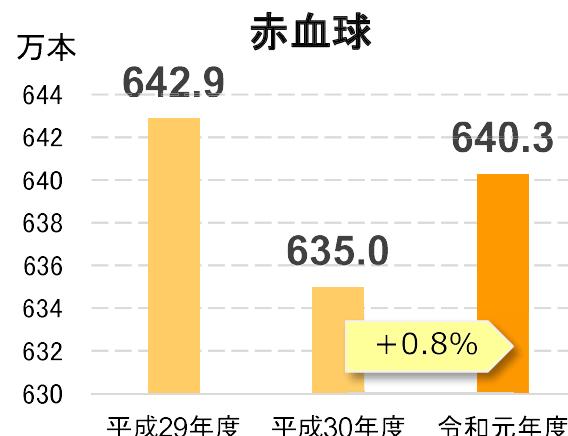
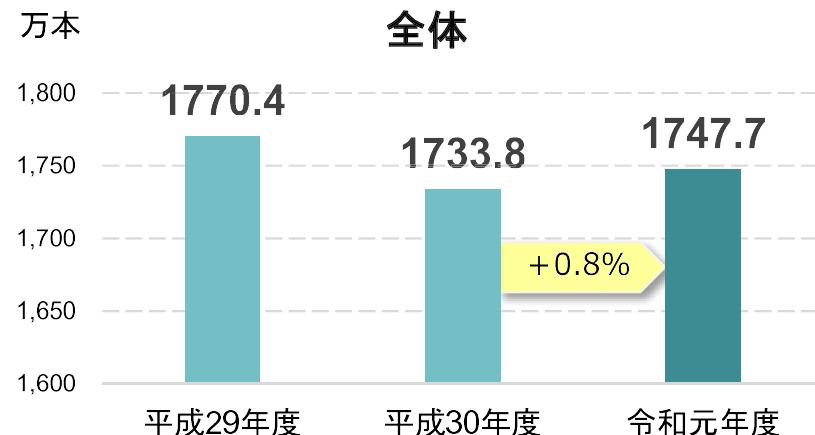
・国内製造販売業者等への配分量



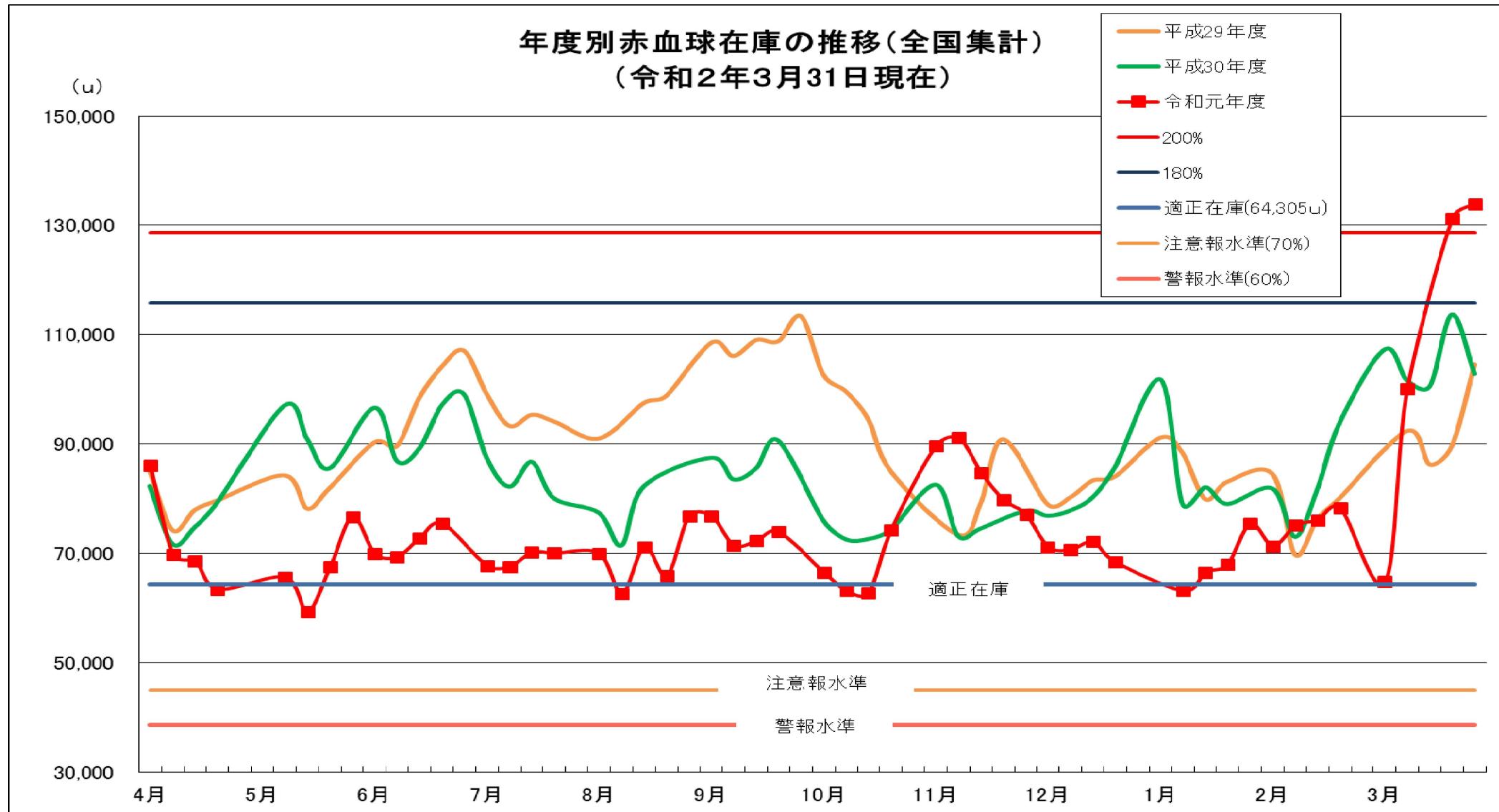
2 供給実績

- 全体は前年に対し、0.8%増の1,747.7万本
- 赤血球製剤は0.8%増の640.3万本
- 血漿製剤は1.4%減の214.8万本
- 血小板製剤は1.3%増の892.6万本

※本数は200mL献血由来を1本とした換算数



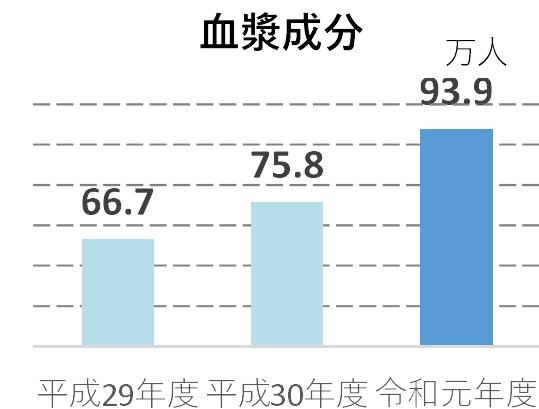
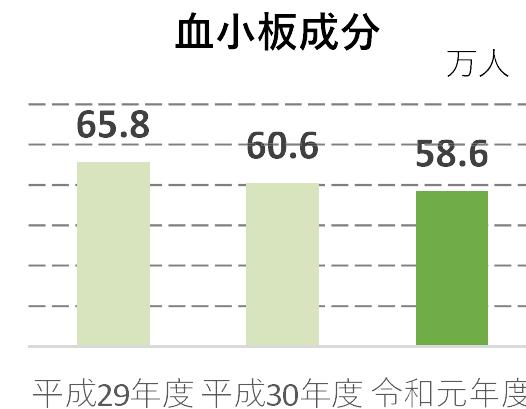
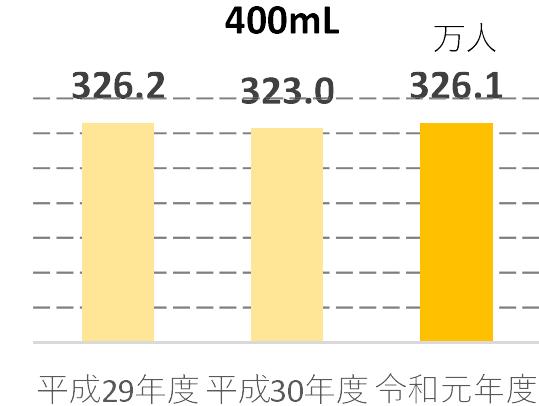
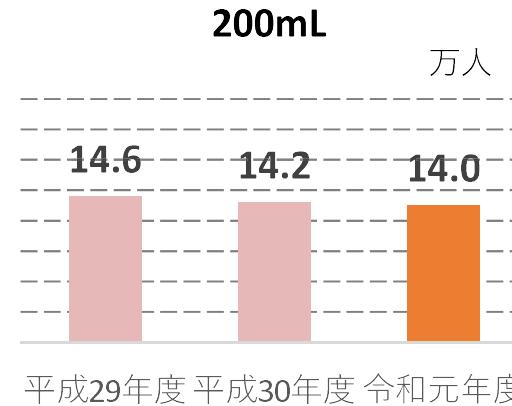
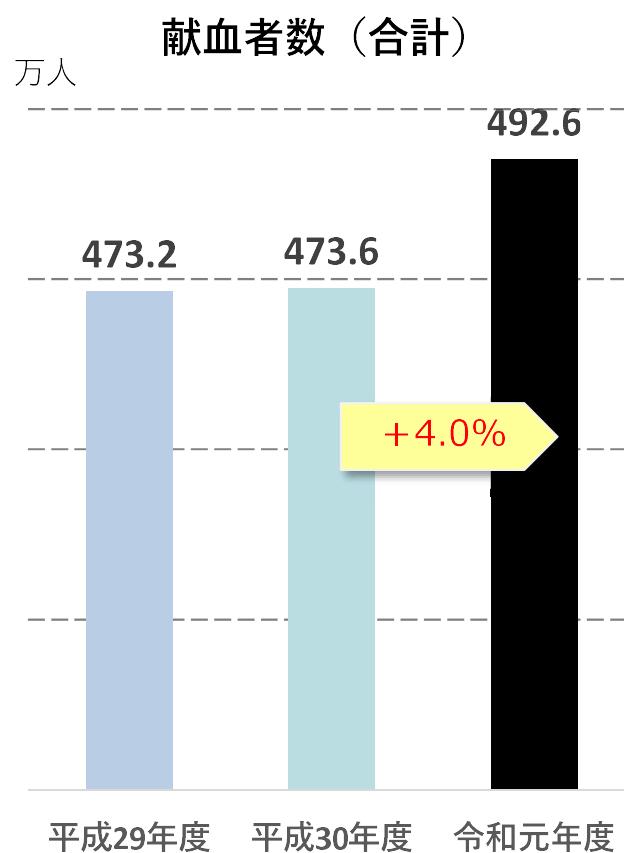
赤血球製剤の在庫推移



年間を通じて安定供給が確実に行えている

3 献血実績

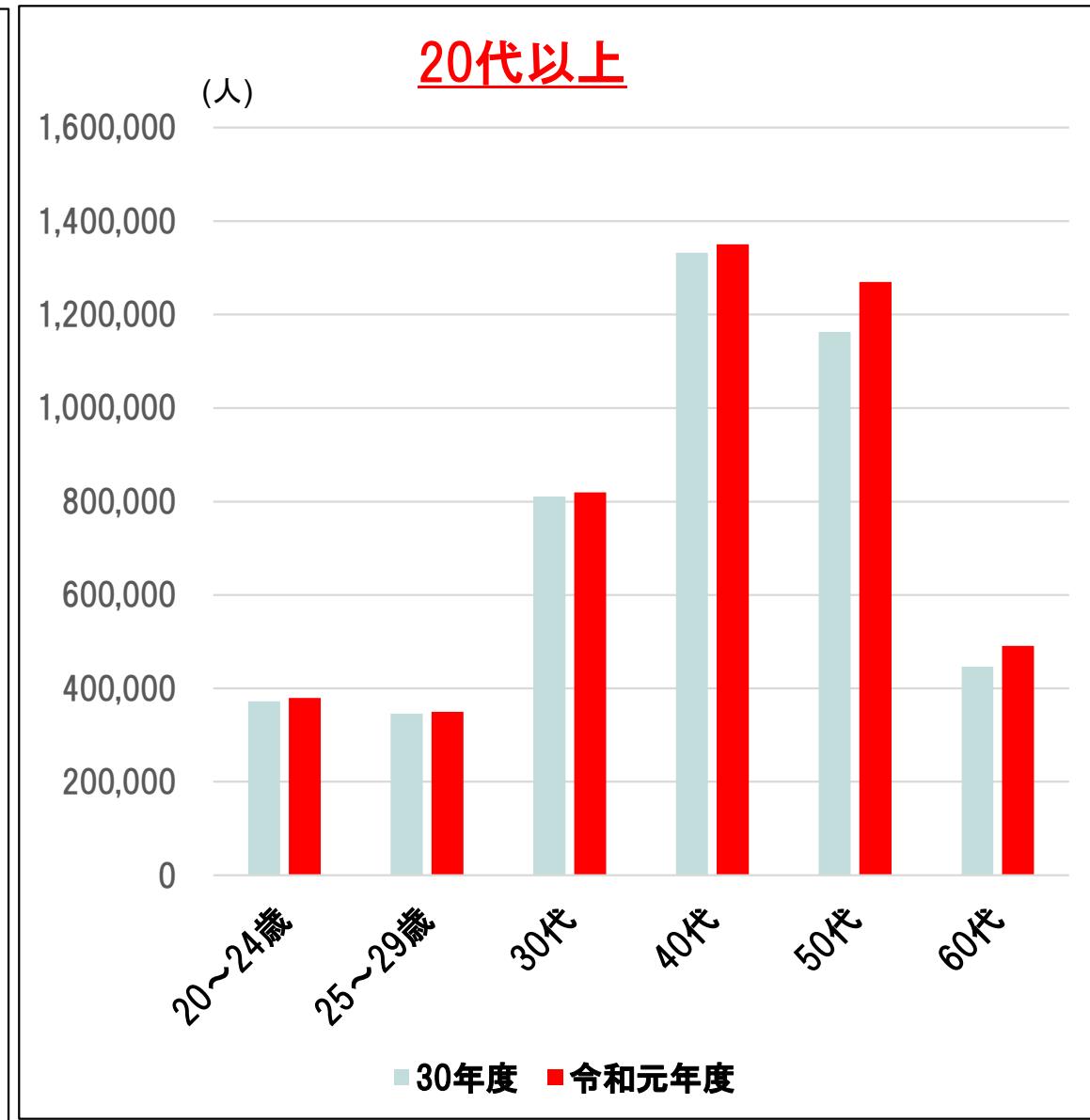
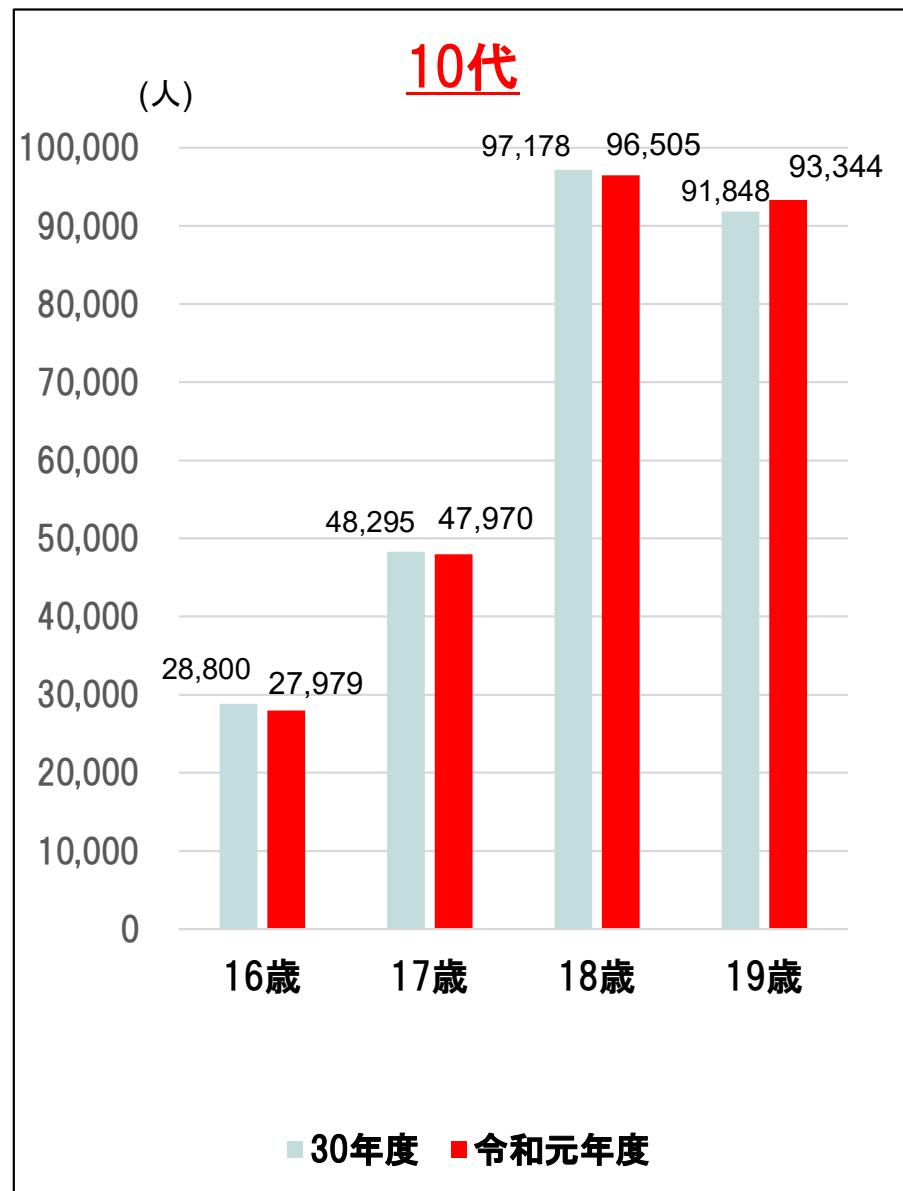
総献血者数は、平成30年度比で190,544人増（4.0%増）の492万6千人



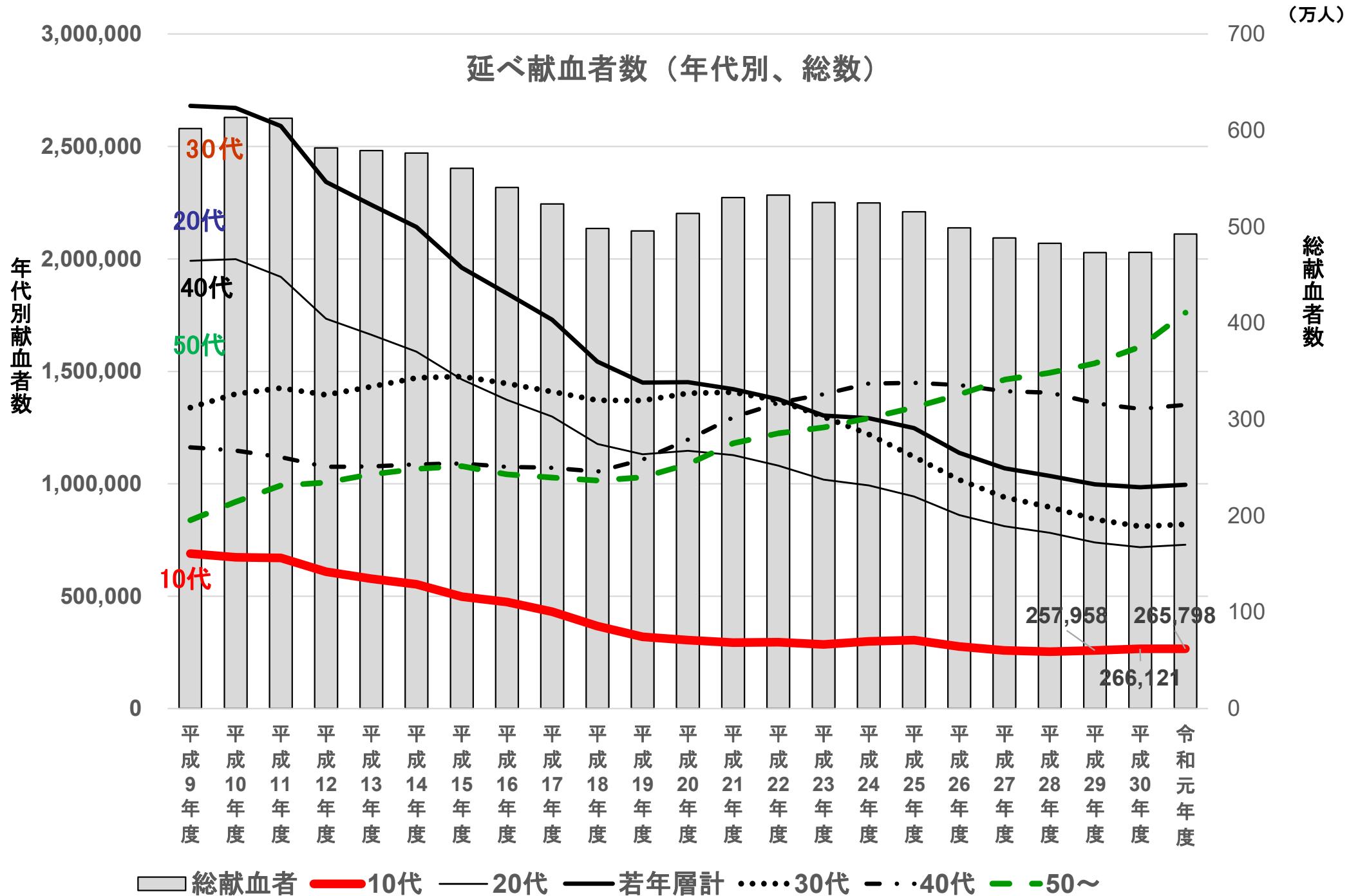
- 献血推進計画における確保目標量に対する実績

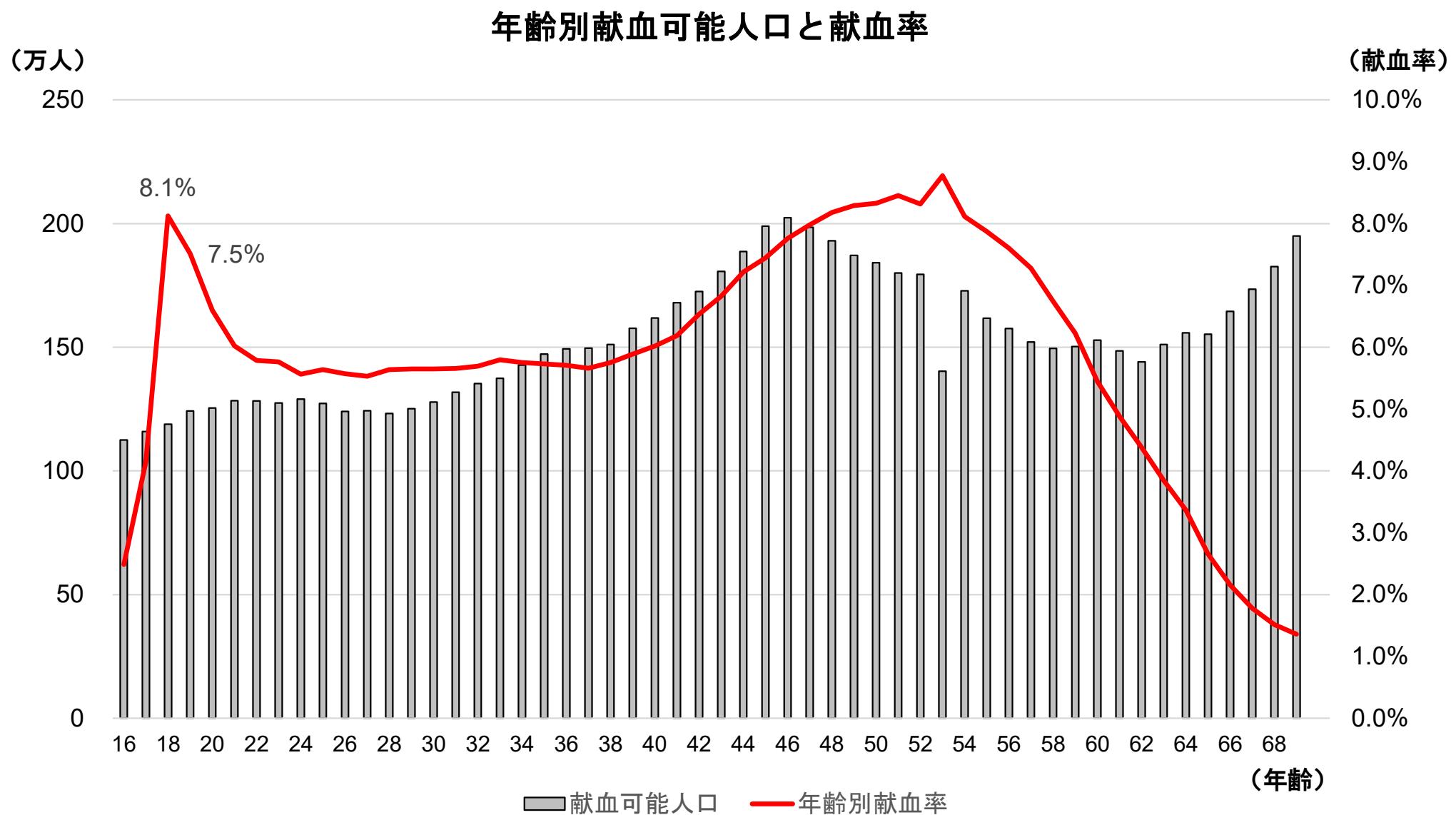
種別	目標量	採血量(実績)
全血採血	133万リットル	133万リットル
血漿成分採血	49万リットル	50万リットル
血小板成分採血	31万リットル	31万リットル

年代別献血状況（対前年度）



10代の献血者は、対前年度で323人減 (-0.1%) とほぼ横ばいであった。



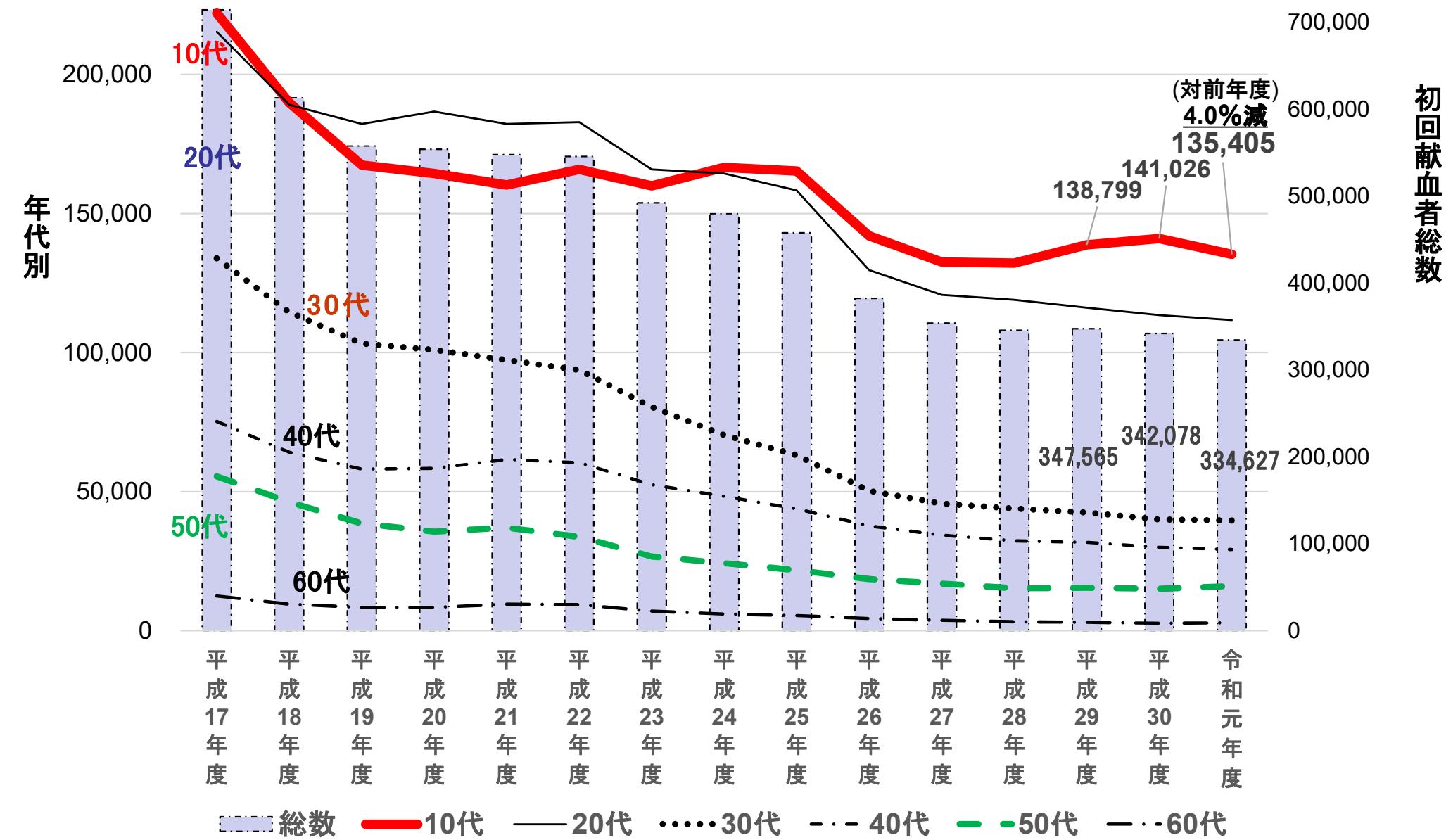


年齢別献血率は、18歳(8.1%)、19歳(7.5%)をピークに24歳まで減少し、35歳までは横ばいとなる傾向である。

(人) 250,000

800,000

初回献血者（年代別、総数）



10代の初回献血者は、対前年度5,621人減 (-4.0%) であった。

都道府県別10代献血者

年代	10代				
	16歳～19歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	15,000	14,890	15,370	99.3%	96.9%
北海道ブロック	15,000	14,890	15,370	99.3%	96.9%
青森県	3,600	3,831	3,996	106.4%	95.9%
岩手県	2,650	1,992	1,973	75.2%	101.0%
宮城県	5,952	6,459	6,246	108.5%	103.4%
秋田県	2,202	2,039	1,898	92.6%	107.4%
山形県	2,098	2,111	2,182	100.6%	96.7%
福島県	3,100	3,102	3,346	100.1%	92.7%
東北ブロック	19,602	19,534	19,641	99.7%	99.5%
茨城県	6,420	6,749	6,642	105.1%	101.6%
栃木県	8,397	8,983	8,806	107.0%	102.0%
群馬県	5,650	6,528	6,027	115.5%	108.3%
埼玉県	15,615	13,290	14,510	85.1%	91.6%
千葉県	12,355	12,231	12,122	99.0%	100.9%
東京都	29,720	28,029	28,774	94.3%	97.4%
神奈川県	15,186	14,571	15,379	96.0%	94.7%
新潟県	5,327	5,024	5,447	94.3%	92.2%
山梨県	3,400	3,324	3,398	97.8%	97.8%
長野県	2,837	2,789	2,735	98.3%	102.0%
関東甲信越ブロック	104,907	101,518	103,840	96.8%	97.8%
富山県	2,080	2,335	2,259	112.3%	103.4%
石川県	2,360	2,760	2,520	116.9%	109.5%
福井県	1,260	1,366	1,213	108.4%	112.6%
岐阜県	3,570	3,442	3,355	96.4%	102.6%
静岡県	7,460	7,433	7,403	99.6%	100.4%
愛知県	14,670	14,696	14,264	100.2%	103.0%
三重県	2,300	2,077	2,095	90.3%	99.1%
東海北陸ブロック	33,700	34,109	33,109	101.2%	103.0%

年代	10代				
	16歳～19歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
滋賀県	2,400	2,648	2,514	110.3%	105.3%
京都府	5,038	5,382	4,960	106.8%	108.5%
大阪府	17,410	18,012	17,371	103.5%	103.7%
兵庫県	10,998	10,299	10,903	93.6%	94.5%
奈良県	1,950	2,001	1,930	102.6%	103.7%
和歌山県	2,310	2,981	2,486	129.0%	119.9%
近畿ブロック	40,106	41,323	40,164	103.0%	102.9%
鳥取県	952	969	883	101.8%	109.7%
島根県	936	893	1,045	95.4%	85.5%
岡山県	4,518	4,322	4,449	95.7%	97.1%
広島県	6,478	6,492	6,216	100.2%	104.4%
山口県	2,150	2,278	2,051	106.0%	111.1%
徳島県	1,132	973	1,062	86.0%	91.6%
香川県	1,949	1,919	1,887	98.5%	101.7%
愛媛県	3,446	3,154	3,388	91.5%	93.1%
高知県	1,426	1,135	1,305	79.6%	87.0%
中四国ブロック	22,987	22,135	22,286	96.3%	99.3%
福岡県	11,564	13,230	12,330	114.4%	107.3%
佐賀県	1,243	1,311	1,273	105.5%	103.0%
長崎県	2,823	2,811	2,863	99.6%	98.2%
熊本県	4,674	4,733	4,880	101.3%	97.0%
大分県	2,033	1,856	1,840	91.3%	100.9%
宮崎県	2,025	1,815	1,797	89.6%	101.0%
鹿児島県	3,190	2,681	2,945	84.0%	91.0%
沖縄県	3,900	3,852	3,783	98.8%	101.8%
九州ブロック	31,452	32,289	31,711	102.7%	101.8%
合計	267,754	265,798	266,121	99.3%	99.9%
差異 (R1-H30)	-323				

都道府県別20代献血者

年代	20代				
	20~29歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	37,140	37,883	36,910	102.0%	102.6%
北海道ブロック	37,140	37,883	36,910	102.0%	102.6%
青森県	7,500	6,591	6,434	87.9%	102.4%
岩手県	7,570	6,817	6,501	90.1%	104.9%
宮城県	16,160	15,788	15,991	97.7%	98.7%
秋田県	7,712	6,007	5,968	77.9%	100.7%
山形県	6,259	5,867	5,745	93.7%	102.1%
福島県	11,781	9,941	10,513	84.4%	94.6%
東北ブロック	56,982	51,011	51,152	89.5%	99.7%
茨城県	14,331	12,917	12,825	90.1%	100.7%
栃木県	11,752	11,759	11,089	100.1%	106.0%
群馬県	12,454	11,222	11,148	90.1%	100.7%
埼玉県	34,706	30,358	31,114	87.5%	97.6%
千葉県	36,107	33,067	33,679	91.6%	98.2%
東京都	123,215	106,506	103,910	86.4%	102.5%
神奈川県	45,208	42,753	42,250	94.6%	101.2%
新潟県	15,980	14,337	14,208	89.7%	100.9%
山梨県	5,035	4,855	4,580	96.4%	106.0%
長野県	11,227	9,700	9,682	86.4%	100.2%
関東甲信越ブロック	310,015	277,474	274,485	89.5%	101.1%
富山県	5,991	5,424	5,539	90.5%	97.9%
石川県	6,503	6,355	6,103	97.7%	104.1%
福井県	4,298	3,860	3,818	89.8%	101.1%
岐阜県	9,329	8,164	7,803	87.5%	104.6%
静岡県	17,632	15,733	15,556	89.2%	101.1%
愛知県	48,853	46,725	45,404	95.6%	102.9%
三重県	7,187	6,827	6,729	95.0%	101.5%
東海北陸ブロック	99,793	93,088	90,952	93.3%	102.3%

年代	20代				
	20~29歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
滋賀県	7,150	6,198	5,885	86.7%	105.3%
京都府	17,500	17,873	17,015	102.1%	105.0%
大阪府	65,478	63,323	59,592	96.7%	106.3%
兵庫県	32,518	29,303	29,434	90.1%	99.6%
奈良県	6,940	6,265	5,922	90.3%	105.8%
和歌山県	5,100	5,523	5,038	108.3%	109.6%
近畿ブロック	134,686	128,485	122,886	95.4%	104.6%
鳥取県	3,550	3,106	3,185	87.5%	97.5%
島根県	2,931	2,717	2,858	92.7%	95.1%
岡山県	12,032	11,296	11,424	93.9%	98.9%
広島県	21,440	18,642	18,435	86.9%	101.1%
山口県	5,956	6,147	6,073	103.2%	101.2%
徳島県	4,267	3,542	3,757	83.0%	94.3%
香川県	5,121	4,405	4,352	86.0%	101.2%
愛媛県	8,722	7,865	7,678	90.2%	102.4%
高知県	4,522	4,125	4,029	91.2%	102.4%
中四国ブロック	68,541	61,845	61,791	90.2%	100.1%
福岡県	32,865	30,446	29,292	92.6%	103.9%
佐賀県	4,486	3,984	3,864	88.8%	103.1%
長崎県	8,376	7,051	7,148	84.2%	98.6%
熊本県	10,114	9,819	9,662	97.1%	101.6%
大分県	6,489	6,428	6,345	99.1%	101.3%
宮崎県	5,964	5,060	5,517	84.8%	91.7%
鹿児島県	9,826	9,080	9,363	92.4%	97.0%
沖縄県	8,450	7,647	8,206	90.5%	93.2%
九州ブロック	86,570	79,515	79,397	91.9%	100.1%
合計	793,727	729,301	717,573	91.9%	101.6%
差異 (R1-H30)	+11,728				

都道府県別30代献血者

年代	30代				
	30~39歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	39,800	39,470	39,296	99.2%	100.4%
北海道ブロック	39,800	39,470	39,296	99.2%	100.4%
青森県	9,500	8,030	7,828	84.5%	102.6%
岩手県	9,252	7,638	7,741	82.6%	98.7%
宮城県	15,650	15,855	15,340	101.3%	103.4%
秋田県	8,751	7,288	6,747	83.3%	108.0%
山形県	7,504	7,456	7,272	99.4%	102.5%
福島県	13,232	13,526	13,821	102.2%	97.9%
東北ブロック	63,889	59,793	58,749	93.6%	101.8%
茨城県	17,542	15,876	15,791	90.5%	100.5%
栃木県	15,438	14,967	14,373	96.9%	104.1%
群馬県	16,166	14,297	14,147	88.4%	101.1%
埼玉県	40,722	36,216	36,235	88.9%	99.9%
千葉県	40,476	36,002	36,296	88.9%	99.2%
東京都	118,375	105,187	102,691	88.9%	102.4%
神奈川県	54,446	49,628	48,314	91.2%	102.7%
新潟県	17,269	15,824	15,534	91.6%	101.9%
山梨県	5,708	5,100	4,933	89.3%	103.4%
長野県	13,898	11,860	12,413	85.3%	95.5%
関東甲信越ブロック	340,040	304,957	300,727	89.7%	101.4%
富山県	7,247	6,282	6,279	86.7%	100.0%
石川県	7,699	7,265	7,218	94.4%	100.7%
福井県	5,328	4,752	4,710	89.2%	100.9%
岐阜県	12,202	10,149	9,766	83.2%	103.9%
静岡県	25,097	21,505	21,744	85.7%	98.9%
愛知県	54,179	48,843	47,467	90.2%	102.9%
三重県	10,285	9,534	9,489	92.7%	100.5%
東海北陸ブロック	122,037	108,330	106,673	88.8%	101.6%

年代	30代				
	30~39歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (H30年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
滋賀県	9,550	8,308	8,176	87.0%	101.6%
京都府	16,100	16,949	15,859	105.3%	106.9%
大阪府	66,224	60,761	59,442	91.8%	102.2%
兵庫県	37,715	33,020	32,869	87.6%	100.5%
奈良県	8,260	7,630	7,194	92.4%	106.1%
和歌山県	6,800	6,395	6,569	94.0%	97.4%
近畿ブロック	144,649	133,063	130,109	92.0%	102.3%
鳥取県	4,850	4,358	4,253	89.9%	102.5%
島根県	3,844	3,543	3,540	92.2%	100.1%
岡山県	13,908	13,006	13,116	93.5%	99.2%
広島県	23,377	20,988	20,246	89.8%	103.7%
山口県	7,830	7,818	7,758	99.8%	100.8%
徳島県	5,732	4,904	5,044	85.6%	97.2%
香川県	7,066	5,790	5,980	81.9%	96.8%
愛媛県	10,083	8,459	8,676	83.9%	97.5%
高知県	5,452	4,684	4,722	85.9%	99.2%
中四国ブロック	82,142	73,550	73,335	89.5%	100.3%
福岡県	38,546	34,308	34,306	89.0%	100.0%
佐賀県	5,910	5,404	5,472	91.4%	98.8%
長崎県	10,907	9,552	9,625	87.6%	99.2%
熊本県	13,183	12,650	12,581	96.0%	100.5%
大分県	8,951	8,514	8,739	95.1%	97.4%
宮崎県	7,488	6,506	6,980	86.9%	93.2%
鹿児島県	12,387	12,140	11,598	98.0%	104.7%
沖縄県	12,300	11,473	11,932	93.3%	96.2%
九州ブロック	109,672	100,547	101,233	91.7%	99.3%
合計	902,229	819,710	810,122	90.9%	101.2%
差異 (R1-H30)				+9,588	

4 献血血液確保に係る取組について

(1) 広報資材の作成

- ①高校生や大学生をはじめ若年層に受け入れられやすい内容の情報誌「愛のかたち献血」・「みんなの献血ナビ」を作成
 ・令和元年度：193,300部（愛のかたち献血）・630,000部（みんなの献血ナビ）



(2) 映像素材の作成

- ①テレビ、ラジオCM「みんなの献血」用
- ②テレビ、ラジオCM「はたちの献血」キャンペーン用
- ③献血をわかりやすく視覚で訴えるインフォグラフィック動画「What's KENKETSU? (1分版、3分版)」を更新
- ④オリジナル献血絵本「けんけつのはなし」読み聞かせ動画
- ⑤YouTuber「ボンボンTV」とのコラボ動画 34万回視聴

(3) 若年層に対する働きかけ

①年代別献血目標人数の設定（10～30代）

- 平成29年度より、行政との連携により都道府県別に目標人数を設定
 ・週単位での進捗管理（全国の血液センターで情報を共有）
 ・各ブロック、各血液センターにおいて若年層強化対策を実施



②学校献血の機会を拡大し若年層献血血液の確保強化

- ・高等学校：実施校数20校減少 令和元年度1,286校（前年度1,306校）
- ・大学、専門学校等：実施校数29校減少 令和元年度815校（前年度844校）

（参考資料2 1ページ）

③献血セミナーの実施

- ・学校等での開催：1,950回（受講者：221,873人）
- ・血液センター等での開催：897回（受講者：15,611人）

（参考資料1 11ページ）

(4) その他の普及啓発 献血つながりプロジェクト『みんなの献血』 ⇒主に10代～30代の献血者を増加させることを目的に展開

①行催事を切り口に、乃木坂46を起用したオリジナルグッズを作製し、献血者に配付（計5回実施）

オープニング：6/12～ ハロウィン：10/1～31 クリスマス：12/1～25

バレンタイン：1/27～2/16 春休み：3/2～31

②Twitterによる情報発信（フォロワー6,698人）8/20現在

③若者に人気のアニメ“ラブライブ！サンシャイン!!”とのタイアップによる献血推進

オリジナルクリアファイル20,000枚配付

④献血啓発オリジナル絵本の制作

※幼稚園・保育園、小学校、図書館、児童館、赤十字関連施設に34,000冊献本

※簡易版の絵本をイベント等で配布するため各血液センターに50,000冊納品

⑤親子向け絵本読み聞かせイベントの実施

※全国5カ所で実施（北海道、宮城県、神奈川県、岐阜県、広島県）

⑥受血者である友寄蓮氏による献血セミナー「ありがとうの手紙 From 献血で救われたいのち」を実施

※全国で7校実施（北海道：札幌創成高等学校 栃木県：白鷗大学足利高等学校 等）

⑦乃木坂46の握手会にて特設ブースを設置し、献血バスを配車

※全国4か所で実施（宮城県、千葉県、愛知県、大阪府）

各種広報資材

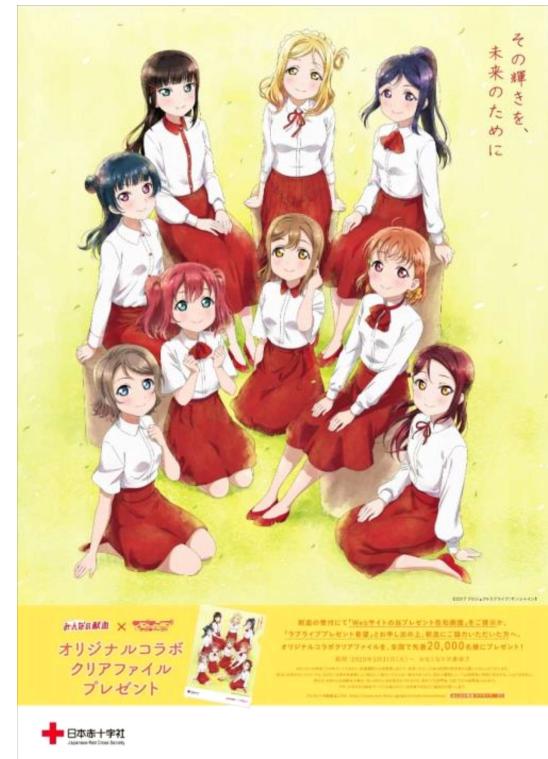
(みんなの献血)



(はたちの献血)



(アニメとのコラボ)



【参考】 新たな献血推進プロジェクトの展開

令和元年6月から献血つながりプロジェクト「みんなの献血」を新たに展開



【プロジェクトの主たる対象】

10~30代の若年層

【プロジェクトの狙い】

- ・18歳・19歳の初回献血者の増加
- ・18歳・19歳の2回目の再来促進
- ・20代・30代の献血経験者の再来促進



若年層(10~30代)の献血者数は、前年度比で20,993人増加

献血つながりプロジェクト「みんなの献血」の概要

対象に応じて、「イベントでつながる！」「学校でつながる！」「絵本でつながる！」の3つのプロモーションを展開した。



5 新型コロナウイルス感染症に伴う対応について

- ・テレワークの推奨やオンライン授業、更にイベントの中止等により、移動採血による献血実施予定していた会場の中止増加

(令和2年5月末時点では約5,000件)

- ・必要血液量の確保に向けた対策

献血会場等での献血環境の保持及び周知

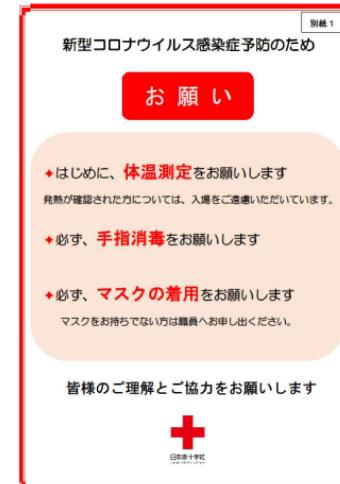
中止会場の振替実施及び献血ルームへの誘導

「ラブラッド」を通じた献血予約の推進強化

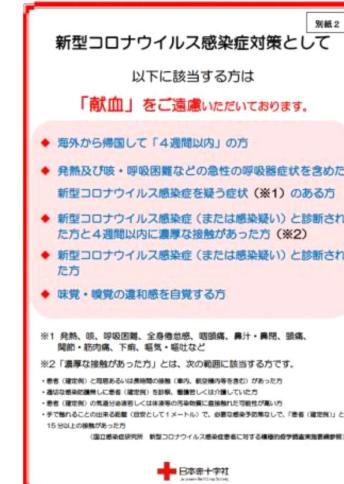
ホームページ及びマスメディア等を活用した献血協力の呼びかけ

行政機関及び関係団体との連携

- ・献血会場における掲示物



【献血会場入場時のお願い】



【献血辞退の条件など】

移動採血車における感染症対策



(上部の換気も確保するためチェーンやポールを用いてビニールシートを吊り下げる)



問診にアクリル板使用



(ビニールシートを吊るすため、業者対応やスマホリングを用いて天井にフックを設置)

6 まとめ

- ・ 総献血者数は190,544人増 (+4.0%) の約492万6千人であり、輸血用血液製剤及び原料血漿については、滞りなく安定供給が行えた。
- ・ 輸血用血液製剤の総供給本数は0.8%増の1,747.7万本、原料血漿の確保量は15.2%増の114.4万リットルであった。
- ・ 10代献血者については、前年度と比較し献血者数で延べ323人減 (-0.1%)、初回者で5,621人減 (-4.0%) であった。
- ・ 10代献血者については、献血Web会員サービス「ラブラッド」、YouTube、SNS等の施策を展開しながら初回献血を推進し、献血への理解を促す策を講じることで2回目以降の献血に繋がるよう積極的に取り組む。
- ・ 20代、30代献血者については、18歳、19歳をピークに30代半ばまで減少する傾向がある。献血予約を推進することで待ち時間を解消する等、利便性を高めて献血に協力いただける機会の増加を図る。
- ・ 中長期の需要予測に伴い安定的な献血血液の確保に向けて、ラブラッド等を活用し継続的な献血血液の確保の強化を図り、特に若年層の献血満足度の向上に努め複数回献血協力に誘導する。
- ・ 新しい生活様式を踏まえ、献血推進の在り方を検討。現在は基本対応として体温測定、手指消毒、マスク着用を実施しているほか、ホームページや各種メディア等で献血会場の混雑回避のため献血予約を呼びかけている。
- ・ 小学生から大学生への啓発（献血セミナー等）については、インターネットを活用したオンラインでの実施を取り入れながら、厚生労働省をはじめ、国・行政との連携を密にして積極的な展開を図る。

献血推進の施策について（厚生労働省の取組）

1. 普及啓発

(1) 若年層に対する普及啓発

①中学生への普及啓発

献血への理解を促すことを目的としたポスターを全国の中学校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・平成29年度：11,255校に3.4万枚を配布
- ・平成30年度：11,269校に3.4万枚を配布
- ・令和元年度：10,477校に3.1万枚を配布

②高校生への普及啓発

ア 献血に関する副読本（けんけつHOP STEP JUMP）を全国の高校に配布

※令和元年度より、学校における働き方改革の観点から、希望調査を実施

- ・平成29年度：6,384校に生徒用118万部、教員用6.4万部を配布
- ・平成30年度：6,383校に生徒用117万部、教員用6.4万部を配布
- ・令和元年度：5,988校に生徒用107万部、教員用6.0万部を配布

イ 高等学校等における献血に触れあう機会の受入れの推進

平成23年度から毎年度、文部科学省の協力を得て、高等学校等における献血に触れ合う機会の一環として、日本赤十字社が実施している学校献血や献血セミナーを積極的に受け入れてもらえるよう、高等学校等関係者に協力を依頼している。

③大学生等への普及啓発

平成30年度からの取組として、大学、短期大学、専門学校等に献血の啓発ポスターを配布

- ・平成30年度：5,452校に2.4万部を配布
- ・令和元年度：5,379校に2.4万部を配布

④主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

「はたちの献血」キャンペーン（毎年1～2月）の広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・平成29年度：4.3万枚を配布
- ・平成30年度：4.3万枚を配布
- ・令和元年度：4.3万枚を配布

(2) その他の普及啓発

①「愛の血液助け合い運動」（毎年7月）の実施

ア 広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・平成29年度：4.0万枚を配布

- ・平成 30 年度 : 3.9 万枚を配布
- ・令和元年度 : 3.9 万枚を配布
- ・令和 2 年度 : 3.9 万枚を配布

イ 献血運動推進全国大会の開催

- ・平成 29 年度 : 7月 12 日 秋田県で開催
- ・平成 30 年度 : 豪雨の影響により中止 (7月 12 日 岡山県で開催を予定していた)
- ・令和元年度 : 7月 11 日 石川県で開催
- ・令和 2 年度 : 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止
(6月 24 日 北海道で開催を予定していた)

②テレビ、ラジオ、新聞等を積極的に活用した普及啓発の実施

- ・平成 29 年度 : 政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook
- ・平成 30 年度 : 政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook
- ・令和元年度 : 政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook

2. 若年層の献血者数の増加に向けた取組

将来にわたり安定的に血液を確保するため、平成 29 年度から、日本赤十字社及び都道府県と協力の上、献血者数が減少傾向にある 10 代から 30 代の年代別献血者数の目標値を設定し、若年層の献血者数の増加に向けた取組を実施している。

		10 代	20 代	30 代
平成 30 年度	実績	266,121 人	717,573 人	810,122 人
令和元年度	目標(計画)	267,754 人	793,727 人	902,229 人
	実績	265,798 人	729,301 人	819,710 人
対 30 年度実績比		99.9%	101.6%	101.2%
対元年度目標比		99.3%	91.9%	90.9%

(参考) 延べ献血者数に占める割合

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代・60 代	延べ献血者数
昭和 60 年度	20.3%	30.3%	23.8%	16.2%	9.3%	8,763,037
平成元年度	18.0%	28.5%	22.6%	19.1%	11.8%	7,765,013
平成 5 年度	16.1%	30.5%	21.2%	19.0%	13.3%	7,138,298
平成 10 年度	11.0%	32.6%	22.8%	18.7%	15.0%	6,136,449
平成 15 年度	8.9%	26.1%	26.3%	19.4%	19.2%	5,606,457
平成 20 年度	5.9%	22.3%	27.3%	23.3%	21.2%	5,137,612

平成 25 年度	5. 9%	18. 3%	21. 7%	28. 1%	26. 0%	5, 156, 325
平成 30 年度	5. 6%	15. 2%	17. 1%	28. 1%	34. 0%	4, 735, 944
令和元年度	5. 4%	14. 8%	16. 6%	27. 4%	35. 8%	4, 926, 488

令和元年度の献血実績の評価について

1. 令和元年度実績の評価

- 令和元年度においても、多くの方の御協力により、輸血用血液製剤及び原料血漿の安定供給に必要な血液量を確保することができた。
- 令和元年度における延べ献血者数は、対前年度約19万千人の増(4.0%増)の492.6万人、献血率は前年度0.3ポイント増の5.8%となった。
(参考)
 - ・ 輸血用血液製剤の供給本数は、対前年度で約0.8%増加
 - ・ 原料血漿の国内製造販売業者等への配分量(在庫取崩量を除く)は、免疫グロブリン製剤等の供給量の増加により、対前年度で約15.2%増加
- 若年層の献血者数について、10年で約35%減少したが、令和元年度において、延べ献血者数は対前年度約2万人増(1.2%増)となった。この要因として、学校献血の推進に加え、献血セミナーの実施や高校生向け副読本(けんけつHOP STEP JUMP)、大学生等への啓発ポスターの配布など、厚生労働省、都道府県、日本赤十字社による各種普及啓発や、平成29年度から実施している年代別献血者数の目標設定とその進捗管理が影響したと考えられる。

2. 令和3年度献血推進計画策定にあたっての方向性(案)

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血者数及び献血率の増加を図るための各種取組について、引き続き、重点的に推進する必要がある。
- 令和元年度の年齢別献血率によると、18歳では8.1%、19歳では7.5%と10代後半で比較的高い献血率を示しているが、20代半ばまで献血率が減少し、30代半ばごろまでは横ばいとなる結果となった。
- これらを踏まえ、令和3年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
① 10代については、献血者数及び献血率が改善傾向にあることを踏まえ、引き続き、学校献血や各種普及啓発の実施を通じて、初回献血者の確保を中心とした取組を行う。また、継続的な献血の協力を得られる取組を検討する。

- ② 20代・30代については、18歳、19歳をピークに30代半ばにかけて減少する傾向が見られることから、仕事や家事等で忙しい方が少しでも献血する機会を確保できるよう、利便性を高めるとともに、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力いただくための取組を検討する。

「献血推進2020」の評価について

1. 経緯

少子高齢社会化が進む中、血液の安定した供給体制を構築するため、平成22年度に設定した「献血推進2014」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、令和2（2020）年度までの達成目標を設定し、献血推進を行ってきた。

2. 「献血推進2020」の令和元年度までの実績

項目	目標	平成27年度 (2015年)	平成28年度 (2016年)	平成29年度 (2017年)	平成30年度 (2018年)	令和元年度 (2019年)
若年層の献血者数の増加	10代の献血率を7.0%まで増加させる	5.4%	5.2%	5.3%	5.4%	5.5%
	20代の献血率を8.1%まで増加させる	6.5%	6.2%	5.7%	5.6%	5.7%
	30代の献血率を7.6%まで増加させる	6.0%	5.8%	5.4%	5.3%	5.5%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を60,000社まで増加させる	53,316社	54,696社	56,151社	57,781社	59,280社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間120万人まで増加させる	967,142人	954,067人	944,962人	949,140人	983,351人

献血の周知度 の上昇	献血セミナー の実施回数 (年間)を 1,600 回まで 増加させる	1,211 回	1,772 回	2,094 回	2,150 回	1,950 回
-----------------------	--	---------	---------	---------	---------	---------

- (1) 若年層の献血率については、10代は、平成28年度に一時低下したが、平成29～令和元年年度と上昇した。20代、30代は、平成27年度以降、低下傾向にあるが、令和元年度に上昇に転じた。引き続き、若年層への働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 企業献血については、着実に数字を伸ばしてきたが、目標の60,000には届いていない。引き続き企業献血について働きかけを行っていく必要がある。
- (3) 複数回献血については、平成29年度まで低下傾向にあったが、その後上昇に転じた。血液の安定供給のためにも、引き続き複数回献血者の確保に取り組んでいく必要がある。

3. 今後の方向性

- ・献血推進2020における数値目標については、「献血の周知度の上昇」以外は達成が難しい状況となっている。
- ・しかしながら、少子高齢社会において血液の安定した供給体制を構築するためには、これらの項目を達成することが必要であることから、次期中期計画においても引き続き目標に掲げるこことし、目標の数値については、社会情勢を踏まえ検討する。
- ・次期中期計画については、2025年までの5年間とする。

「はたちの献血」キャンペーンのあり方について

「はたちの献血」キャンペーンとは

○経緯

昭和50年に日本民間放送連盟（民放連）の呼び掛けで始まり、昭和62年から旧厚生省、都道府県、日本赤十字社の3者が主催。

○目的

献血者が減少しがちな冬期において安全な血液製剤の安定供給を確保するため、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民各層に献血に関する理解と協力を求めるとともに、国民一人一人に献血の重要性を普及啓発し、献血運動を全国で盛り上げることを目的とする。

○期間

1月1日から2月29日までの2ヶ月間

○実施期間

主催：厚生労働省、都道府県、日本赤十字社

後援：一般社団法人 日本民間放送連盟、一般社団法人 日本民営鉄道協会
一般社団法人 日本コミュニティ放送協会

○実施事項

(令和2年1月から2月の実績)

- ・厚生労働省：各種広報手段の活用（厚労HP、月間「厚生労働」、政府広報ラジオ、yahoo!バナー広告）、ポスター配布、日本赤十字社、都道府県に対しキャンペーンへの協力要請
- ・日本赤十字社：各種広報手段の活用（TVCM、ラジオCM、キャンペーンサイト開設、オリジナルグッズの配布等）、ポスター配布、キャンペーンキャラクター起用（乃木坂46）、移動採血や献血セミナー等での普及啓発
- ・各都道府県：各種広報手段の活用（HP、SNS周知、新聞広告等）、ポスター掲示、成人式での広報資材配布等

「はたちの献血」キャンペーンのあり方に関するアンケート

○目的

令和4年4月に成年年齢が18歳に引き下げられること等を踏まえ、より効果的な献血の推進策を実施するため、キャンペーンのあり方について検討する。

○対象

キャンペーン主催者である各都道府県及び日本赤十字社、後援団体である（一社）日本民間放送連盟、（一社）日本民営鉄道協会、（一社）日本コミュニティ放送協会、若年層に対し手の献血推進及び献血思想の普及を行っている学生献血推進ボランティア

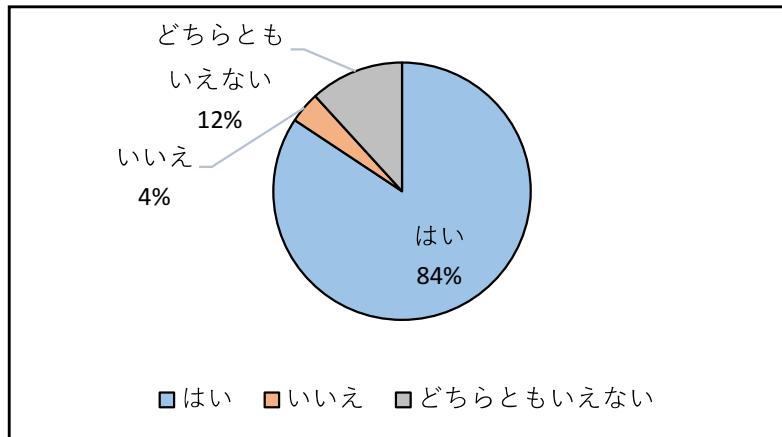
○回答期間

令和2年6月12日から7月3日

○アンケート結果（調査52団体、回答51団体、回答率98%）

「はたちの献血」キャンペーンのあり方に関するアンケート

Q1：「はたちの献血」キャンペーンは、若年層向けの広報として効果的だと思いますか。



Q2：「はたちの献血」キャンペーンは、若年層向けの広報として効果的だと思いますか。

① はい

- ・成人式で広報しているから
- ・人気アイドルをキャンペーンキャラクターにしているから
- ・長年継続しているキャンペーンであるから
- ・対象が限定されており、分かりやすいから

② いいえ

- ・広報内容が他のキャンペーンと共通しており、特段効果的とはいえない

③ どちらとも言えない

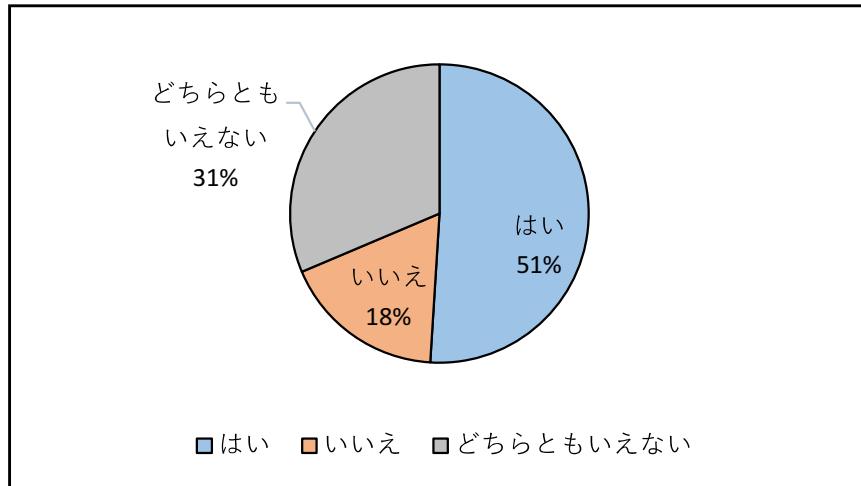
- ・はたちに限定することによって対象が限定される印象があるため
- ・施策の方向性が不明なため
- ・20代の献血者数の増加につながっていない

Q3：より効果的なキャンペーンとするためのアイデアがあれば教えてください（抜粋）

- ・マスメディアやSNSで情報発信をする
- ・若年層に人気のある有名人に広報してもらう
- ・高校生も広報の対象とする
- ・大学など教育機関の協力を得る
- ・ポスター、記念品の作成

「はたちの献血」キャンペーンのあり方に関するアンケート

Q4：「はたちの献血」キャンペーンの名称を変更した方がよいと思いますか



Q5：新名称の候補やコンセプトがあれば教えてください（抜粋）

- ・広く若年層を対象とする名称にすべき
- ・18歳の献血
- ・新成人の献血
- ・若者の献血
- ・はじめての献血

Q6：その他ご要望等があれば教えてください（抜粋）

- ・キャンペーンの時期は受験と重ならないよう配慮すべき
- ・成人式は20歳で行うところが多いため、名称変更はしなくてよい
- ・キャンペーンの名称は長年かけて周知しているのでそのままがよい
- ・他の世代を対象としたものがあってもよい
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の中でも十分に普及啓発が行えるキャンペーンとしていただきたい
- ・造血幹細胞移植事業も一体で進めて欲しい
- ・採血可能年齢について誤解を招くので名称に年齢を入れない方がよい

※自由記述について別紙も参照

参考：成人式の時期や在り方等に関する報告書(令和2年3月)※本資料用に一部加工

(法務省：成年年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議 成人式の時期や在り方等に関する分科会)

○本報告書の目的

分科会において収集した情報を取りまとめたものであり、各地方公共団体に向けてこれらの情報を発信することを目的として作成されたもの。

○祝日法における成人の日の意義と民法の成年年齢の関係について

祝日法において、成人の日は、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする成年を祝いはげます」日と定められている。「おとな」の年齢については、明確な定義を設けないこととされており、民法の成年年齢を必ずしも一致するものではない。また、祝日法において、成人式に関する規定はない。

(出典)

成年年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議 成人式の時期や在り方等に関する分科会 (第8回)

資料1：成人式の時期や在り方等に関する報告書

<http://www.moj.go.jp/content/001318263.pdf>

参考：成人式の時期や在り方等に関する報告書(令和2年3月)※本資料用に一部加工

(法務省：成年年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議 成人式の時期や在り方等に関する分科会)

○アンケート結果

- ・全市区町村を対象とした調査結果（対象1,741、回答1,037）※回答期間：令和元年6月4日から14日まで
【対象年齢】

現在の成人式の対象年齢

- | | |
|---|---------------------|
| 1. 20歳（年度中に20歳に達する人＝19歳の者と20歳の者が対象となる） | 969回答（93.4%） |
| 2. 21歳（年度中に21歳に達する人＝20歳の者と21歳の者が対象となる） | 65回答（6.3%） |
| 3. その他 | 3回答（0.3%） |

成年年齢引下げ後の成人式の対象年齢に関する方針決定

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 決定している | 67回答（6.5%） |
| 2. 現在検討中である | 683回答（65.9%） |
| 3. 検討していない | 287回答（27.7%） |

※ 成人式の対象年齢については、「現在検討中である」との回答が最も多い。

成年年齢引下げ後の成人式の対象年齢※上記回答にて「1.決定している」と回答した67市区町村対象

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 18歳（年度中に18歳に達する人） | 2回答（3.0%） |
| 2. 19歳（年度中に19歳に達する人） | 1回答（1.5%） |
| 3. 20歳（年度中に20歳に達する人） | 61回答（91.0%） |
| 4. 21歳（年度中に21歳に達する人） | 3回答（4.5%） |

※ 20歳または21歳にした理由としては「18歳で成人式を実施すると、実行委員会の活動時期と受験などの準備期間が重なり、新成人らが実行委員会に参加することが難しくなるから」、「対象者が集まりやすいから」「民法の成年年齢と成人式の対象年齢は必ずしも一致させる必要がないから」、「現状を変える必要がないから」

18歳または19歳とした理由は「民法の成年年齢が18歳に引き下げられたから」「法律上、「大人」として扱われることになる年齢の前後で成人式をすることにより、若者の自覚を促すことができるから」

参考：成人式の時期や在り方等に関する報告書(令和2年3月)※本資料用に一部加工

(法務省：成年年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議 成人式の時期や在り方等に関する分科会)

【実施時期】

現在の成人式の実施時期

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 1月（成人の日を含む三連休） | 776回答 (74.8%) |
| 2. 1月（成人の日を含む三連休以外） | 143回答 (13.8%) |
| 3. 3月（春休みなど） | 3回答 (0.3%) |
| 4. 4月・5月（ゴールデンウィークなど） | 12回答 (1.2%) |
| 5. 8月（お盆の時期など） | 96回答 (9.3%) |
| 6. その他の時期 | 7回答 (0.7%) |

成年年齢引下げ後の成人式の実施時期に関する方針決定

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 決定している | 94回答 (9.1%) |
| 2. 現在検討中である | 610回答 (58.8%) |
| 3. 検討していない | 333回答 (32.1%) |

※ 成人式の実施時期については、「現在検討中である」との回答が最も多い。

成年年齢引下げ後の成人式の実施時期※上記にて「1. 決定している」と回答した94市区町村

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 1月（成人の日を含む三連休） | 68回答 (72.3%) |
| 2. 1月（成人の日を含む三連休以外） | 7回答 (7.4%) |
| 3. 3月（春休みなど） | 0回答 (0.0%) |
| 4. 4月・5月（ゴールデンウィークなど） | 1回答 (1.1%) |
| 5. 8月（お盆の時期など） | 18回答 (19.1%) |
| 6. その他 | 0回答 (0.0%) |

※ 既に方針を決定している94市区町村は全て現在の実施時期と同じ時期。

参考：成人式の時期や在り方等に関する報告書(令和2年3月)※本資料用に一部加工

(法務省：成年年齢引き下げを見据えた環境整備に関する関係府省庁連絡会議 成人式の時期や在り方等に関する分科会)

・16歳から22歳までの年齢層（以下、Aとする。）及び40歳から59歳までの年齢層（以下、Bとする）を対象とした調査結果（対象 A 3,500 B 1,500 回答 A 1,802 B 958人）※回答期間：平成30年11月29日から12月24日

【対象年齢】

成年年齢引下げ後の成人式の対象年齢

- | | | |
|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. 18歳（年度中に18歳に達する人） | A : 341回答 (18.9%) | B : 330回答 (34.4%) |
| 2. 19歳（年度中に19歳に達する人） | A : 135回答 (7.5%) | B : 60回答 (6.3%) |
| 3. 20歳（年度中に20歳に達する人） | A : 1295回答 (71.9%) | B : 527回答 (55.0%) |
| 4. 21歳（年度中に21歳に達する人） | A : 11回答 (0.6%) | B : 6回答 (0.6%) |

※ いずれの年齢層でも20歳の方を対象に実施するのがよいと思う者の割合が最も多い。

【実施時期】

成年年齢引下げ後の成人式の実施時期

- | | | |
|-----------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1. 1月（成人の日など） | A : 1142回答 (63.4%) | B : 535回答 (55.8%) |
| 2. 3月（春休みなど） | A : 434回答 (24.1%) | B : 182回答 (19.0%) |
| 3. 4月・5月（ゴールデンウィークなど） | A : 130回答 (7.2%) | B : 87回答 (9.1%) |
| 4. 8月（お盆の時期など） | A : 53回答 (2.9%) | B : 86回答 (9.0%) |
| 5. その他の時期 | A : 25回答 (1.4%) | B : 45回答 (4.7%) |

※ いずれの年齢層でも1月に実施するのが良いと思う者の割合が最も高い。

Q2

● 「はたちの献血」キャンペーンは効果的だと思う

- ・ キャンペーン名称が定着している、式典等で広報できる
- ・ 成人式等の行事があり多くの方に一度に献血を周知できる、二十歳という節目であり関心を持ちやすい
- ・ 新社会人や学生が献血に取り組むきっかけになるため
- ・ 各市町村において成人式の式典等に間に合うようPRを行うなど成人としての自覚を持つ機会を利用して啓発していることから人生における大事な節目と感じている若者も少なからずおり通常の啓発よりPR効果が大きいと思われる
- ・ 新成人として自発的な献血行動を喚起するために効果的
- ・ ショッピングセンターにおける啓発活動や各種広報の活用等により献血に触れる機会が増え献血をするきっかけになるため
- ・ 各市町村の成人式でチラシを配布するなど啓発の機会となるため
- ・ 各市町村では成人式実施日に対象者に献血の啓発資料を配付しており効果的である
- ・ はたちという人生の節目に献血について考えるきっかけの一つになりえると思う
- ・ キャンペーングッズ目的で献血に来てくれる若年層が多くいます。人気のアイドルとのコラボは効果があります。
- ・ 血液センターの一日所長の嘱託や新成人に向けたメッセージの伝達等各種イベントを開催するなど若年層向けの広報として定着しているため
- ・ 本県において成人式に啓発資材の配布、街頭キャンペーンを行っており、はたちを迎えた方の効果的な広報となっている
- ・ 昨今若年層において認知度が高いキャンペーンキャラクターの採用により広報の効果はあると考える
- ・ 40年以上継続しているキャンペーンなので認知度は高いと思います
- ・ 対象者が限定されているため的を絞った啓発を行いやすい。当県では期間中に実施される各市町村での成人式において啓発資材を作成し参加者に配布している
- ・ 県内の高校生に向けては県赤十字血液センターと連携しチラシの配布等啓発活動を行っており、若年層に向けて高校生年代からの継続した広報を行うことが重要であるため
- ・ キャンペーンのネーミング自体が若者向けとなっているため、また、当県では例年成人の日にあわせて「はたちの献血」キャンペーンのイベントを行っており当日は若者の献血者も多く効果があると考える
- ・ 成人になるのを機に献血の意義を考えてもらうとともに、若者の一人として当事者意識を持ってもらい献血者数が減少傾向にある若年層に対して献血推進及び献血思想の普及につながるため
- ・ 長年にわたり実施されており「はたちの献血」の認知度は高いと思うため。また、語呂がよい。
- ・ 自分自身このキャンペーンで献血について興味を持ったから。成人式の日は新成人や友人兄弟など多くの若年層が町に訪れる、そのような場所で献血を行えば必然的に若年層に献血について触れてもらいやすくなると思うから。今まで献血したことがなかった方に「はたちの」という名前をつけることによって献血をするきっかけになるから。同年代に呼びかけられた方が興味や関心を持ちやすいから。若年層の献血者数を増やすことは非常に重要であり影響力がある方が呼びかけることで献血者数の増加につながると思うから。大々的にCMやポスターでキャンペーンを打ち出していることもあり献血に興味がない人の目にも多く触れるきっかけとなるため。
- ・ アイドルをキャラクターにするなど若年層に適応するキャンペーンだと思います
- ・ 献血は年間を通じて必要であり夏季の「愛の血液助け合い運動」、冬期の本キャンペーンを実施することで継続的に広報できるから
- ・ ポスターの学校等への配布及び掲示などにより学生をはじめとした若年層への献血啓発につながっていると思います
- ・ 本県では高校献血が盛んであるが、卒業すると献血の機会が減少する。献血について改めて考えてもらうきっかけとして効果があると考える
- ・ 献血をしたことがない方へもよいきっかけとなると思います

- ・若年層に人気のある芸能人を広告塔にしていて、献血に興味のない人も目を引くキャンペーンだと思います
- ・期間を決めて集中的に広報するため
- ・20代に一斉に啓発できる手段はなかなかないことから、1つの機会として効果的だと思います
- ・対象が限定されていることで若年層により意識してもらいやすい
- ・有名人を起用した広報等、長年定着していると考えられるため
- ・成人式に出席する方への献血の普及啓発を行うよい機会となるため
- ・血液が不足する冬期に成人式を迎える若者に献血の協力を呼びかけることにより献血をしてみようというきっかけになるから
- ・例年学生献血推進協議会やボランティア団体の方々にもキャンペーンに参加いただき若年層への普及啓発に効果的と思えるから
- ・成人式の開かれる冬場は献血が減る傾向があること、新成人となるタイミングで若年層に社会貢献の手段をアピールする機会となることから効果的であると思います
- ・長年続いたことにより「はたち」＝「献血」として献血を推進する定着した広報であることから
- ・本キャンペーンは主に新成人等若年層を啓発のターゲットにしぼったものになっており、若年層向けの取組として効果的なイベントを考える
- ・マスコットキャラクターを活用したイベントの開催や若年層に人気のある有名人を起用した広報活動を行うことにより若年層の献血への関心を高めることができているため
- ・成人式と関連づけて区市町村へ広報を依頼することが可能であるため。ただ、20歳以外も含む若年層全体への普及啓発活動だと伝わるよう配慮する必要があるかと思います
- ・現状学校で献血に関する講習を受ける機会は少ない。そのため若年層に直接よびかけを行う当該キャンペーンは有効と考える
- ・キャンペーンの名称からターゲットを想起しやすいため
- ・人生の節目を迎えた若者に対し呼びかける機会が設けられていることで目に触れる機会が増えるという点で一定の効果はあるのではないかと思う
- ・同年代の有名人をキャンペーンキャラクターにすることで献血を身近に感じてもらえる。また、「はたちの献血」という名称が視覚的にも効果があり、はたちをきっかけに献血を、とのPRになっていると思う
- ・「はたちの献血」は、1975年（昭和50年）から厚生労働省及び各都道府県とともにキャンペーンの主催者となり、若年層を中心に献血推進活動の普及に努めている。また、後援団体の（一社）日本民間放送連盟、（一社）日本民営鉄道協会、（一社）日本コミュニティ放送協会、におかれましても「みんなの献血」を始め広報支援もいただいている、若年層献血推進活動強化の一環として効果的である。

● 「はたちの献血」 キャンペーンは効果的だと思わない

- ・献血基準が17歳から18歳に変更されており若年層20歳以下に向けての広報とはいえない
- ・「みんなの献血」「愛の血液助け合い運動」月間等様々なキャンペーンがあるが、現状、対象者及び広報内容はほぼ共通しており「はたちの献血」キャンペーンが特段若年層向けの広報として効果的だといえない

● 「はたちの献血」 キャンペーンは効果的かどうかどちらとも言えない

- ・はたちに限定することによって対象が限定される印象があるため
- ・若年層への献血普及の動機付けとして20歳については献血可能年齢とも無関係で成人になること以外には関連性がないと思われる。成年年齢が18歳になるとなぜ20歳になったら献血するのかキャンペーンの意味を感じさせられないから
- ・若年層向けの広報としては必要であるが20代の献血者の増加につながっていないため
- ・施策の方向性が不明なため
- ・例年はたちの献血キャンペーンは1、2月に実施されますが、当県では成人式の開催時期が市町村によって8月と1月に分かれているため8月に開催される市町村の新成人にも啓発が行き届くよう県独自で啓発事業を行っています。新成人向けに同様の啓発が重複しているため当県においては効果的な取組とはいえません。
- ・CM等を見たときは気にかけるが、記憶に残らないから

Q 3

●より効果的なキャンペーンとするためのアイデアがあれば教えてください

- ・高校生で成人を迎えることになるため、高校生献血の機会と結びつける
- ・学祭の時期（秋頃）にも周知してはどうか
- ・若年層において献血の重要性は十分に認識しておりながらもその意識が実際の献血行為に関するネガティブな感情やイメージが払拭できていないことから、様々なSNS等を活用した同年代の芸能人の献血体験等のメッセージ動画の配信などを行う
- ・新型コロナの影響によりイベントの開催が困難となる可能性がある、マスメディアやSNSによるリモートでの啓発をさらに進める
- ・標語募集案内についても市町村の広報誌に掲載する
- ・SNSによる情報発信
- ・ゲーム性のあるもの：毎月参加でコンプリートを目指す、オリジナルスタンプのプレゼント、人気楽曲のダウンロード
人気アーティストの起用：限定動画配信
- ・対象者だけでなくそのご家族（両親、兄弟姉妹）にも献血への協力を呼びかける。
- ・著名人を起用した広報活動の継続
- ・献血自体は20歳未満でもできるため、より若い年齢を対象にしてもよいと思います
- ・夏祭りなどのお祭りは若年層が多く訪れる上に暇をもてあましやすいのでそのような場を利用するとよいと思う。ハロウィーンキャンペーン。若年層への献血者数増加が目的であれば「はじめての献血」「君にもできる献血」「君にもできる人助け」のような感じで高校生にもできることを謳うべきかとおもう。200mlの需要が少ないので分かるが、献血を一度でももらうことの方が、若年層献血者数増加のためには必要であると思うから。乃木坂46とのコラボはとても効果的だったと思います。駅や学校などにもポスターを貼り大々的なアピールをするとよいと思う。実際に献血を経験した方や献血による血で助かった影響力のある方をアンバサダーにする。学推からも「はたちの献血」に関する活動をすることでもっと全国的な活動として活発になるのではないかと思う。
- ・継続することが効果的だと思います
- ・若年層がみるような媒体（SNSなど）をもっと有効活用するべきではと思います
- ・日赤で行っている「みんなの献血」キャンペーンと連動し「はたちの献血」のポスター等にも同じイメージキャラクターを利用した方が注目されると思われる
- ・若年層に人気があり、影響を与える人（芸能人、スポーツ選手、アニメなど）に広報してもらう
- ・各種クリスマスイベント会場で「献血セミナー」を実施する
- ・大学など教育機関の協力が得られるとよりキャンペーンが浸透するのではないか
- ・若年層に人気のあるタレント等に自身のSNSで呼びかけを行ってもらう
- ・実施事項をより特化し全国で統一の取組を実施する
- ・初めて運転免許取得時の献血キャンペーンの促進（自動車学校等）
- ・はたちの献血、みんなの献血等多くのキャンペーンがあるがコンセプトが一般の方には認知されていないと思う。従来の複数のキャンペーンを若年層への啓発を目的としたキャンペーン一つに絞り込み、年間計画をたてて啓発に取り組んだ方が一般の方へ浸透しやすいと思う
- ・SNSの積極的な活用
- ・10代、20代向けの雑誌に広告や特集記事を掲載する。テレビやYouTubeでCMを流す
- ・献血者のみが応募できるプレゼント企画。キャンペーン中若者向けノベルティ品、温かいお茶についてとか。記憶に残るCM。
- ・二十歳に限らず10代や20代、卒業生で区切りキャンペーンを実施すれば対象者が広がり興味を持つ人が増えるのではないか
- ・今後も同年代の有名人をキャンペーンキャラクターにしたPRを続けて欲しい。
- ・年にわたり、ポスター・記念品等の作成に加え、時代に順応した広報展開（YouTube等のインターネットメディア等も活用）なお、日本赤十字社において、イメージキャラクターを活用したポスター制作。

Q 5

●新名称の候補やコンセプトがあれば教えてください

- ・ 18歳の献血、新成人の献血
- ・ 「若年層（新成人）への献血」と「冬期の（献血者減少に対応した）啓発を分けて実施したらどうか
- ・ 成人の式典の名称とし式典の時期にあわせてキャンペーンを行う
- ・ 献血者数が減少しているのは10代20代だけでなく30代40代の働き盛り世代も減少傾向にあることから血液を必要としている一人の患者をみんなで支える献血のような名称がよいと思います。
- ・ 18の献血、18歳からの「はたちの献血」、みんなの献血
- ・ 「～歳の献血」にこだわらなくてよいと思う。「新成人の献血」
- ・ 18歳から男女ともに成分献血が可能となるため、最初の意識付けが重要だと考えます
- ・ 献血はそもそも20歳から可能というわけではなく成年年齢でもなくなることを鑑みると変更すべきと思われ一例として「18」「成年」「若者」等を推した方がいいかと思います
- ・ 「はじめての献血」、「ふらっと献血」、「誰かのため」をやってみよう、ボランティアは∞（無限大）、「成人の献血」
- ・ 「大人への一歩」献血キャンペーン、「フレッシャーズ献血」キャンペーン
- ・ 「冬の血液助け合い運動」従来の目的（冬期の献血確保と成人を迎える若者への啓発）を踏襲しつつ、成年年齢引き下げによるはたちという概念を取り扱うため名称変更はした方がいい。一方で本来16歳から献血はできるため成人（18）したから献血するまたはできるという誤解を招くキャッチコピーは賛同しかねる。また、仮に「成人」を迎える若者への啓発を全面的に押し出す場合、成人式が大学入試のシーズンと重なるため令和4年度から出席者の少ない成人式で啓発活動を行うことが予想される。単純に夏と冬の年2回のキャンペーンという位置づけに見直してはどうか
- ・ 若者の献血、成年の献血、青春18けんけつ、成年18献血、十八の献血（永遠（とわ）の献血）
- ・ 名称は若年層の目にとまるような端的でポップなもの（たとえば英語など）はどうか。SNS等若者が使用するツールになじむようなものだと目にしてもらう機会が増える可能性があり、当県で作成するポスターやリーフレット等の広告媒体にも記載しやすいです
- ・ 新名称：はじめての献血～果たそう役割～
コンセプト：17歳～18歳向けの年中キャンペーン
- ・ 成年年齢引き下げにともないキャンペーンとしてはたちに固執する必要はないと思う。現状府内各地域においてはたちの献血キャンペーンを実施する場は成人式がメインとなっているが今後各自治体ごとに成人式の参加対象年齢にばらつきが生じる可能性が高い。そうすると現場での混乱も生じかねない。よってQ3の回答にも記載の通り「はたち」の若者限定ではなく広く若年層を対象としたキャンペーンにすべきと考える
- ・ はたちではなく若者全体を対象とする名称を用いる
- ・ 「18歳の献血キャンペーン」全種の献血が可能になる18歳になれば一度献血を経験してみようとするキャンペーンを行う
「高校卒業時の献血キャンペーン」高校を卒業し大学、社会人となる次なるステップを迎える時期に献血を経験してみるキャンペーンを行う、（比較的時間があり人生ステップアップにあわせて体験を誘導できれば効果あるのでは
- ・ 「成人」を対象としたキャンペーンであることがわかるような名称とする
- ・ 「はたち（20才）」や「成年（18才）」といった年齢限定を想起させるような名称ではなく、若年層（10代～20代）を中心とした年代に幅をもたせた献血機会を啓発できるようなキャンペーンの名称であってほしい。

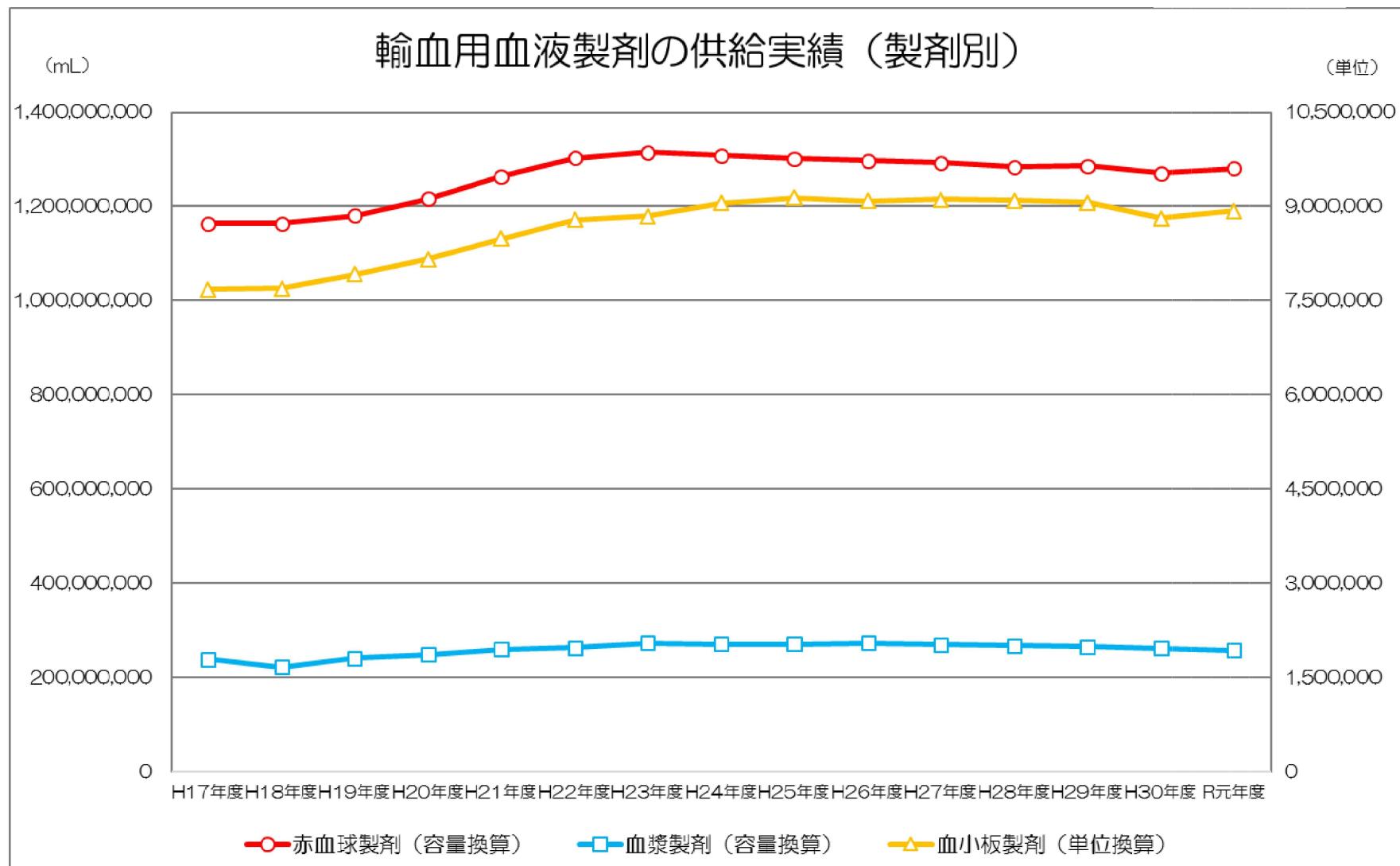
Q 6

●その他ご要望等

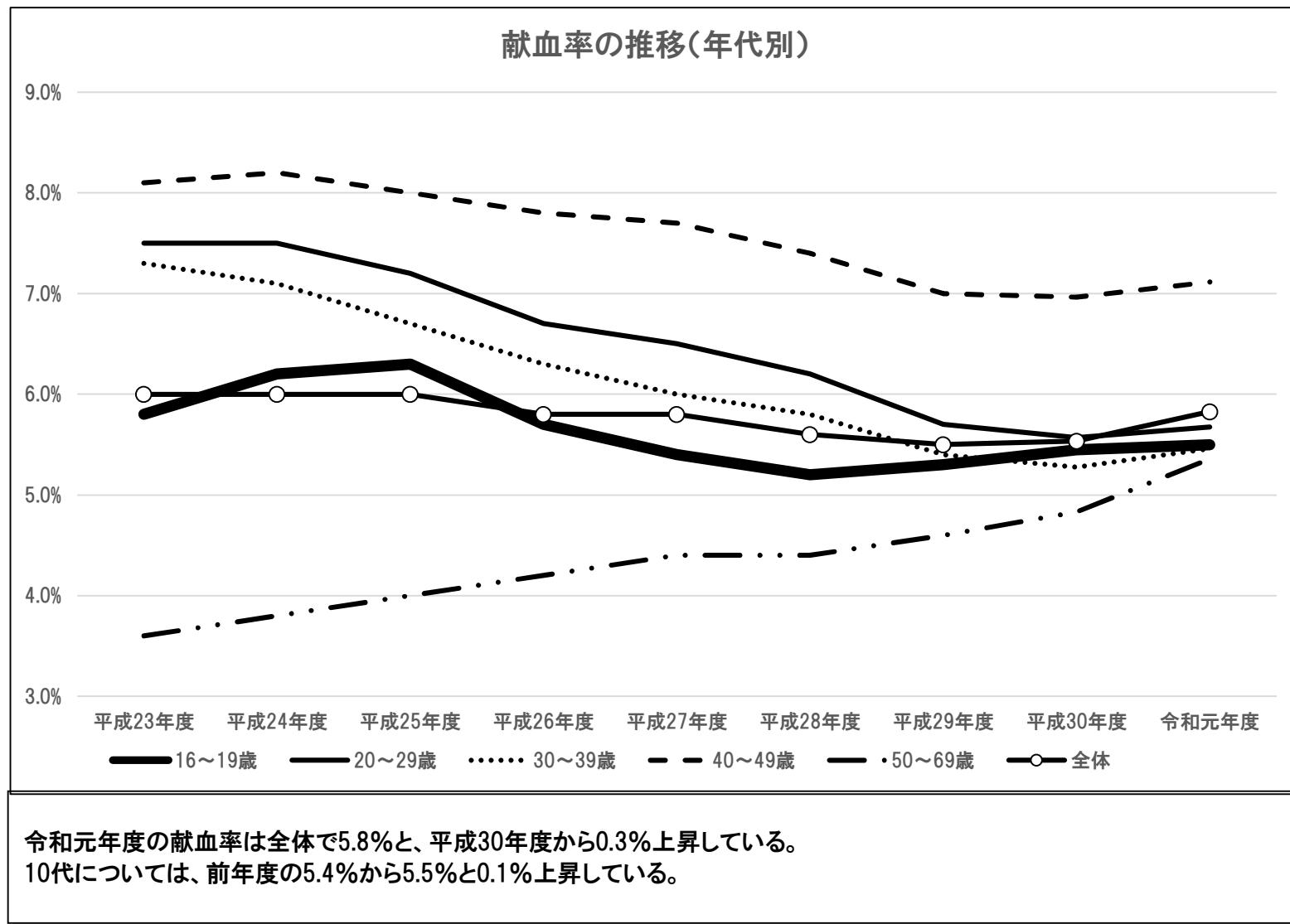
- ・ キャンペーンの時期は受験シーズンに重ならないよう配慮すべき
- ・ はたちの献血キャンペーンは伝統的な行事を活用しており継続すべき。仮にキャンペーンの時期を18歳に変更した場合などは受験シーズン等と重なるため難しいと思われるため新たにキャンペーンを追加するなら16歳位を対象のものとすべき。
- ・ 18歳あるいは20歳での成人式の実施は各自治体にゆだねられているが「はたちの祝い」「はたちの集い」等20歳を対象に行うところが多いため名称変更はしなくてよいと考える
- ・ キャンペーンの名称は長年かけて周知しているものと考えられるのでそのままがよいかと考えます
- ・ 16歳から献血が可能なので16歳からのものや、30歳代のもの等新しいものがあってもよいと思います。当県では昨年度から高校生を対象とした「18G（ゲージ）を乗り越えろ！」をスローガンにリニューアルしたパンフレットと新たにポスターを作成配布しキャンペーンを実施しています
- ・ 二十歳向けのキャンペーンと新成人（18歳）向けのキャンペーンをそれぞれ実施することによりきめ細かく啓発することができると考える
- ・ 成人が18歳であっても現在の成人式の形式は20歳で実施される可能性が高いことから「はたちの献血」を啓発機会の一つととらえ、継続してよいと思います
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大の中でも十分に普及啓発が行えるキャンペーンとしていただきたい。
- ・ 国でも同様な意見が出ているかと思うが都献血推進協議会でも「はたちの献血」という名称が献血が可能になる年齢が20歳からだと誤解を招くのではという意見があり、年齢等をキャンペーン名にいれるのは避けた方がよいのでは
- ・ 造血幹細胞移植事業も同様に若年層への普及啓発が必要でありキャンペーンとしては献血と一体になって進めようにしてほしい
- ・ 10代20代の新社会人を対象としたキャンペーンがあればよい
- ・ 2022年度以降、成人式をどのようにお考えであるか。

献血の現状

- 1 輸血用血液製剤の供給実績(製剤別) 1P
- 2 献血率の推移(年代別) 2P
- 3 複数回献血者及び献血Web会員サービス「ラブラッド」について 3P
- 4 年代別・男女別・回数別実献血者数 4P-5P
- 5 実献血者数(年代別、総数) 6P
- 6 献血Web会員サービス「ラブラッド」の状況 7P
- 7 献血Web会員サービス「ラブラッド」 会員・非会員別献血協力状況(年代別平均献血回数) 8P
- 8 年代別平均献血回数 9P
- 9 年代別実献血者数(構成比) 10P
- 10 献血セミナー実施状況について 11P



※ 赤血球製剤及び血漿製剤は容量(mL)表記、血小板製剤は単位表記としている。
(血小板製剤は、濃度の異なる複数の規格が同一容量であることから、単位表記としている。)



複数回献血者及び献血Web会員サービス「ラブラッド」について

- ・複数回献血者とは、年間2回以上献血する献血者であること。
- ・献血Web会員サービス「ラブラッド」会員とは、複数回献血に協力する意思があり、献血Web会員サービス「ラブラッド」へ登録した献血者であること。(電子メールアドレスを所有し、血液センターが検査履歴データを保有していること)

男女別・献血回数別実献血者数の推移(平成30年度～令和元年度)

平成30年度

(単位:人)

性別	献血回数														合計		
	1回		2回		3回		4回		5回以上 ～10回以下		11回以上 ～20回以下		21回以上		【再掲】 2回以上 (複数回)	比率	
	比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率				
男性	1,103,753	60.7%	426,440	23.5%	178,190	9.8%	21,741	1.2%	53,786	3.0%	32,531	1.8%	1,683	0.1%	714,371	39.5%	1,818,124
女性	609,916	72.2%	169,349	20.0%	24,028	2.8%	12,791	1.5%	22,838	2.7%	5,472	0.6%	291	0.0%	234,769	27.8%	844,685
小計	1,713,669	64.4%	595,789	22.4%	202,218	7.6%	34,532	1.3%	76,624	2.9%	38,003	1.4%	1,974	0.1%	949,140	35.6%	2,662,809

令和元年度

(単位:人)

性別	献血回数														合計		
	1回		2回		3回		4回		5回以上 ～10回以下		11回以上 ～20回以下		21回以上		【再掲】 2回以上 (複数回)	比率	
	比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率				
男性	1,080,625	59.7%	427,444	23.6%	181,924	10.0%	23,929	1.3%	58,199	3.2%	36,438	2.0%	2,197	0.1%	730,131	40.3%	1,810,756
女性	614,168	70.8%	178,312	20.6%	26,308	3.0%	14,202	1.6%	26,742	3.1%	7,246	0.8%	410	0.0%	253,220	29.2%	867,388
小計	1,694,793	63.3%	605,756	22.6%	208,232	7.8%	38,131	1.4%	84,941	3.2%	43,684	1.6%	2,607	0.1%	983,351	36.7%	2,678,144

献血回数において年1回の献血者が減少し、複数回の献血者比率が男女とも増加となった。このことから、平成30年度に引き続き、令和元年度も複数回献血の推進が図れたと考える。

平成30年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

年代	性別	献血回数																合計	構成比率		
		1回		2回		3回		4回		5回以上 ~10回以下		11回以上 ~20回以下		21回以上		【再掲】 2回以上 (複数回)					
		比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率					
10代	男性	96,785	79.1%	18,370	15.0%	4,920	4.0%	914	0.7%	1,157	0.9%	218	0.2%	2	0.0%	25,581	20.9%	122,366	7.8%		
	女性	68,039	78.9%	12,967	15.0%	2,862	3.3%	1,375	1.6%	917	1.1%	97	0.1%	2	0.0%	18,220	21.1%	86,259			
	小計	164,824	79.0%	31,337	15.0%	7,782	3.7%	2,289	1.1%	2,074	1.0%	315	0.2%	4	0.0%	43,801	21.0%	208,625			
20代	男性	204,994	70.8%	54,865	18.9%	18,717	6.5%	2,978	1.0%	5,665	2.0%	2,345	0.8%	70	0.0%	84,640	29.2%	289,634	17.6%		
	女性	132,230	74.2%	31,784	17.8%	5,791	3.3%	2,925	1.6%	4,752	2.7%	691	0.4%	5	0.0%	45,948	25.8%	178,178			
	小計	337,224	72.1%	86,649	18.5%	24,508	5.2%	5,903	1.3%	10,417	2.2%	3,036	0.6%	75	0.0%	130,588	27.9%	467,812			
30代	男性	210,612	63.6%	73,911	22.3%	27,876	8.4%	4,028	1.2%	9,434	2.8%	4,978	1.5%	185	0.1%	120,412	36.4%	331,024	17.7%		
	女性	100,916	72.4%	25,886	18.6%	4,439	3.2%	2,464	1.8%	4,591	3.3%	994	0.7%	30	0.0%	38,404	27.6%	139,320			
	小計	311,528	66.2%	99,797	21.2%	32,315	6.9%	6,492	1.4%	14,025	3.0%	5,972	1.3%	215	0.0%	158,816	33.8%	470,344			
40代	男性	290,769	57.0%	128,059	25.1%	55,397	10.9%	6,855	1.3%	17,655	3.5%	10,859	2.1%	468	0.1%	219,293	43.0%	510,062	26.9%		
	女性	148,414	72.0%	40,825	19.8%	5,655	2.7%	3,173	1.5%	6,343	3.1%	1,599	0.8%	70	0.0%	57,665	28.0%	206,079			
	小計	439,183	61.3%	168,884	23.6%	61,052	8.5%	10,028	1.4%	23,998	3.4%	12,458	1.7%	538	0.1%	276,958	38.7%	716,141			
50代	男性	221,759	53.7%	110,830	26.8%	50,094	12.1%	5,087	1.2%	14,489	3.5%	10,210	2.5%	643	0.2%	191,353	46.3%	413,112	22.0%		
	女性	119,453	69.0%	41,049	23.7%	4,058	2.3%	2,234	1.3%	4,781	2.8%	1,535	0.9%	115	0.1%	53,772	31.0%	173,225			
	小計	341,212	58.2%	151,879	25.9%	54,152	9.2%	7,321	1.2%	19,270	3.3%	11,745	2.0%	758	0.1%	245,125	41.8%	586,337			
60代	男性	78,834	51.9%	40,405	26.6%	21,186	13.9%	1,879	1.2%	5,386	3.5%	3,921	2.6%	315	0.2%	73,092	48.1%	151,926	8.0%		
	女性	40,864	66.3%	16,838	27.3%	1,223	2.0%	620	1.0%	1,454	2.4%	556	0.9%	69	0.1%	20,760	33.7%	61,624			
	小計	119,698	56.1%	57,243	26.8%	22,409	10.5%	2,499	1.2%	6,840	3.2%	4,477	2.1%	384	0.2%	93,852	43.9%	213,550			
合計		1,713,669		595,789		202,218		34,532		76,624		38,003		1,974		949,140		2,662,809			
構成比		64.4%		22.4%		7.6%		1.3%		2.9%		1.4%		0.07%		35.6%		100.0%			

※複数回献血者数:2018/4/1～2019/3/31までの実献血者

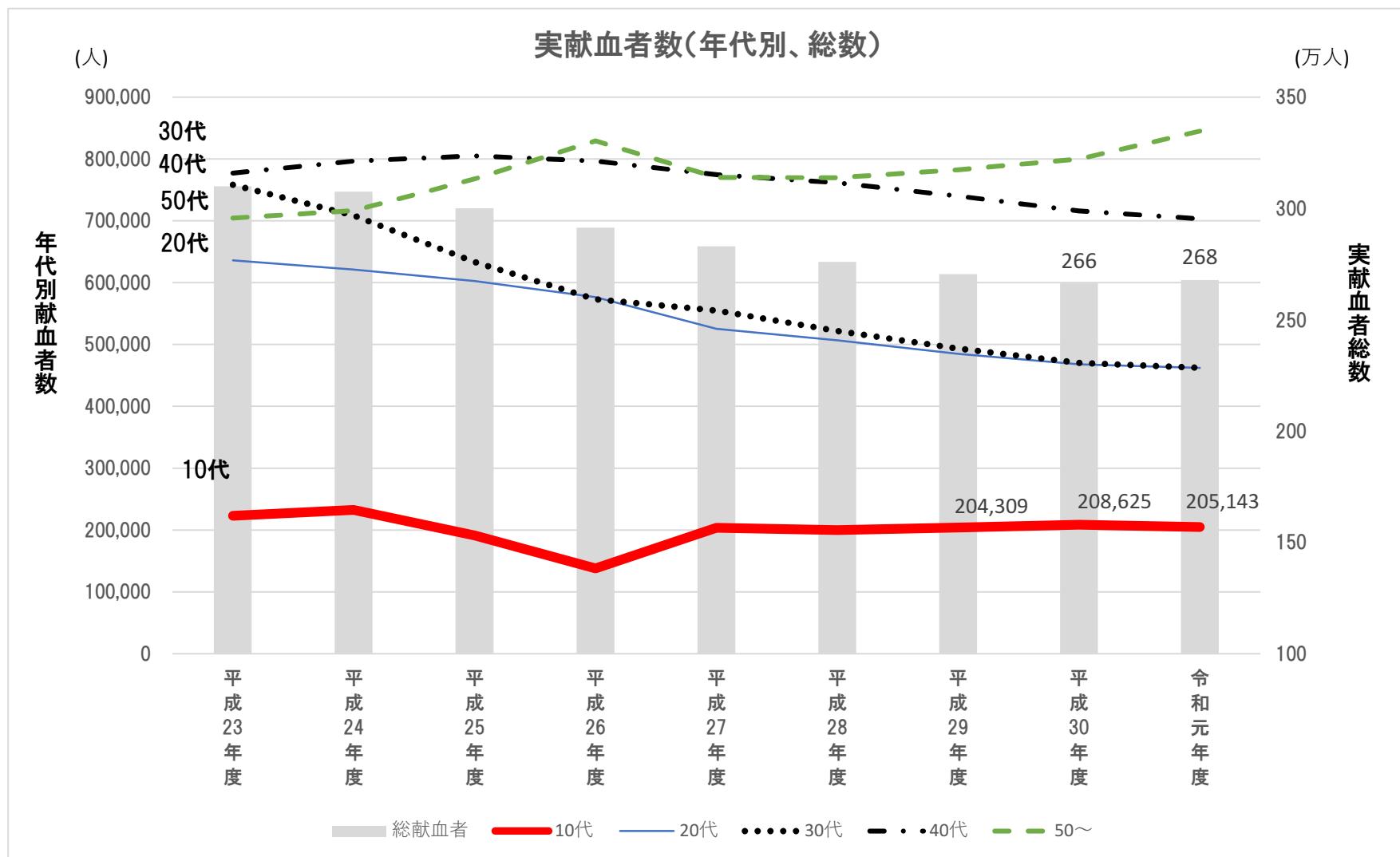
令和元年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

年代	性別	献血回数														合計	構成比率	
		1回		2回		3回		4回		5回以上 ~10回以下		11回以上 ~20回以下		21回以上		【再掲】 2回以上 (複数回)		
			比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率		比率	
10代	男性	93,511	78.5%	17,785	14.9%	5,153	4.3%	1,017	0.9%	1,410	1.2%	308	0.3%	3	0.0%	25,676	21.5%	119,187
	女性	67,465	78.5%	12,928	15.0%	2,968	3.5%	1,409	1.6%	1,054	1.2%	130	0.2%	2	0.0%	18,491	21.5%	85,956
	小計	160,976	78.5%	30,713	15.0%	8,121	4.0%	2,426	1.2%	2,464	1.2%	438	0.2%	5	0.0%	44,167	21.5%	205,143
20代	男性	196,399	69.6%	54,657	19.4%	18,900	6.7%	3,330	1.2%	6,225	2.2%	2,564	0.9%	77	0.0%	85,753	30.4%	282,152
	女性	131,630	73.1%	32,836	18.2%	6,207	3.4%	3,231	1.8%	5,326	3.0%	889	0.5%	9	0.0%	48,498	26.9%	180,128
	小計	328,029	71.0%	87,493	18.9%	25,107	5.4%	6,561	1.4%	11,551	2.5%	3,453	0.7%	86	0.0%	134,251	29.0%	462,280
30代	男性	202,246	62.8%	72,380	22.5%	27,670	8.6%	4,367	1.4%	9,772	3.0%	5,473	1.7%	219	0.1%	119,881	37.2%	322,127
	女性	99,405	70.9%	26,668	19.0%	4,869	3.5%	2,608	1.9%	5,219	3.7%	1,346	1.0%	42	0.0%	40,752	29.1%	140,157
	小計	301,651	65.3%	99,048	21.4%	32,539	7.0%	6,975	1.5%	14,991	3.2%	6,819	1.5%	261	0.1%	160,633	34.7%	462,284
40代	男性	278,600	56.3%	124,359	25.1%	54,125	10.9%	7,227	1.5%	18,410	3.7%	11,702	2.4%	605	0.1%	216,428	43.7%	495,028
	女性	146,110	70.1%	42,782	20.5%	6,262	3.0%	3,587	1.7%	7,474	3.6%	1,985	1.0%	90	0.0%	62,180	29.9%	208,290
	小計	424,710	60.4%	167,141	23.8%	60,387	8.6%	10,814	1.5%	25,884	3.7%	13,687	1.9%	695	0.1%	278,608	39.6%	703,318
50代	男性	227,982	52.8%	115,413	26.7%	53,490	12.4%	5,824	1.3%	16,243	3.8%	11,823	2.7%	858	0.2%	203,651	47.2%	431,633
	女性	126,820	67.6%	45,112	24.1%	4,679	2.5%	2,609	1.4%	5,969	3.2%	2,162	1.2%	167	0.1%	60,698	32.4%	187,518
	小計	354,802	57.3%	160,525	25.9%	58,169	9.4%	8,433	1.4%	22,212	3.6%	13,985	2.3%	1,025	0.2%	264,349	42.7%	619,151
60代	男性	81,887	51.0%	42,850	26.7%	22,586	14.1%	2,164	1.3%	6,139	3.8%	4,568	2.8%	435	0.3%	78,742	49.0%	160,629
	女性	42,738	65.4%	17,986	27.5%	1,323	2.0%	758	1.2%	1,700	2.6%	734	1.1%	100	0.2%	22,601	34.6%	65,339
	小計	124,625	55.2%	60,836	26.9%	23,909	10.6%	2,922	1.3%	7,839	3.5%	5,302	2.3%	535	0.2%	101,343	44.8%	225,968
合計		1,694,793		605,756		208,232		38,131		84,941		43,684		2,607		983,351		2,678,144
構成比		63.3%		22.6%		7.8%		1.4%		3.2%		1.6%		0.10%		36.7%		100.0%

※複数回献血者数:2019/4/1～2020/3/31までの実献血者

献血回数2回以上の比率は、全世代において対昨年度の数値を上回っている。20代～30代の比率の差(伸び)が大きいが、その中でも特に30代女性の複数回献血者数が顕著に増えている。



献血Web会員サービス「ラブラッド」の状況

献血Web会員(ラブラッド会員) 年代構成(平成31年3月末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	49,824	388,662	329,907	458,519	357,114	104,026	1,688,052
対前年 増減数	5,005	41,446	20,172	24,921	49,626	17,886	159,056
構成比	3.0%	23.0%	19.5%	27.2%	21.2%	6.2%	100.0%

献血Web会員(ラブラッド会員) 年代構成(令和2年3月末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	60,159	465,579	392,251	531,752	448,961	136,443	2,035,145
対前年 増減数	10,335	76,917	62,344	73,233	91,847	32,417	347,093
構成比	3.0%	22.9%	19.3%	26.1%	22.1%	6.7%	100.0%

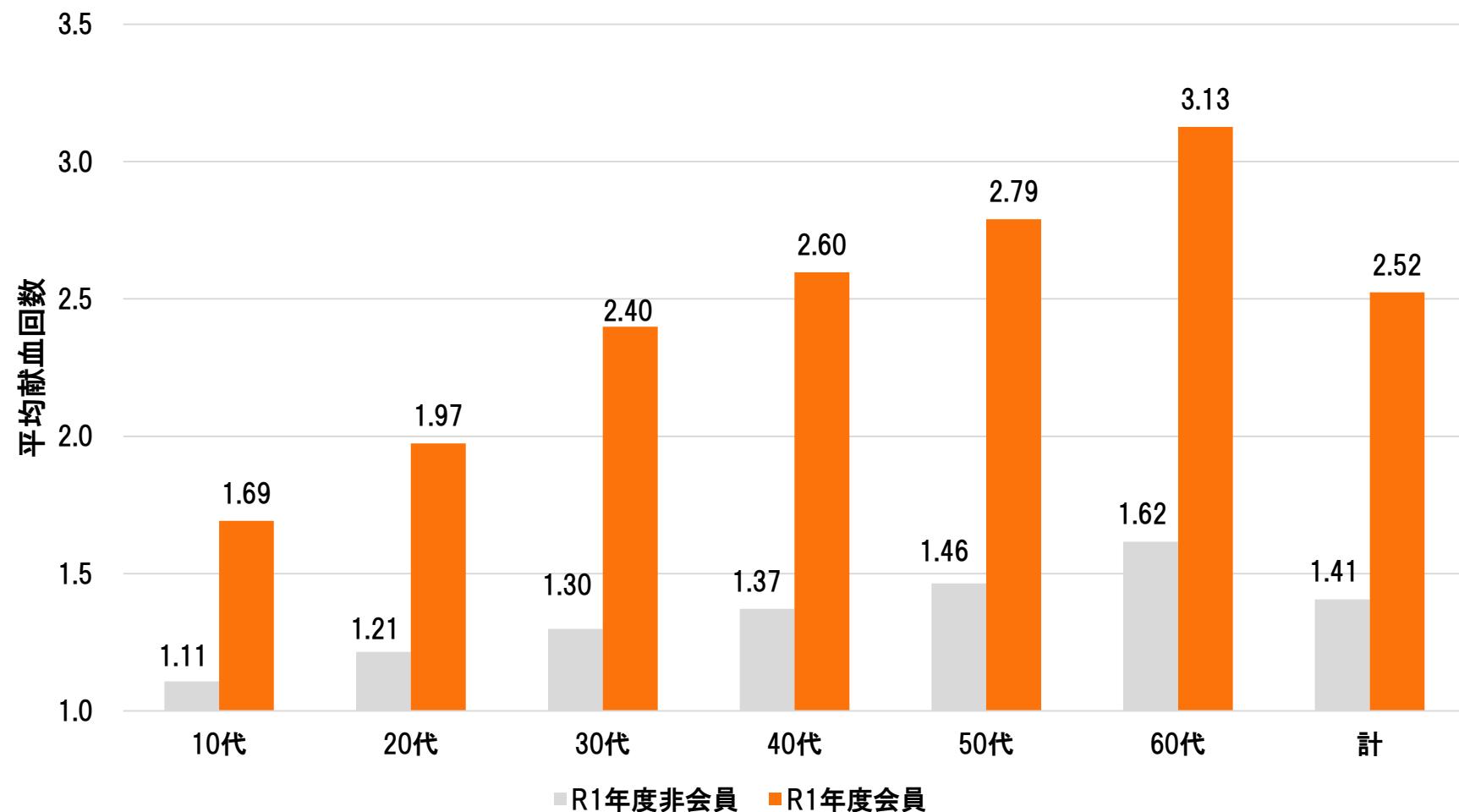
平成30年度 献血Web会員(ラブラッド会員) 献血回数別実献血者数

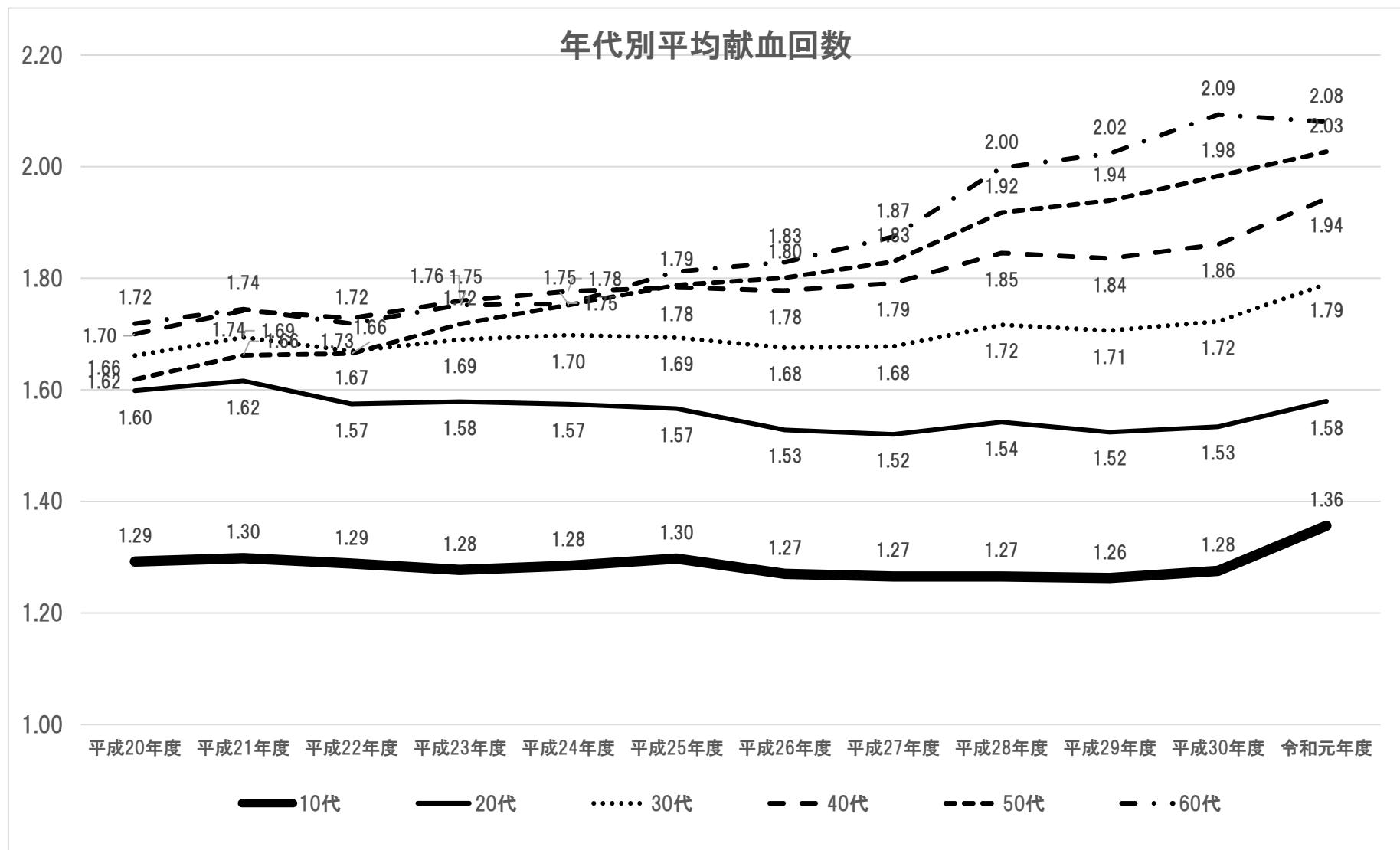
	献血回数								
	1回	2回	3回	4回	5回以上 ～10回以下	11回以上 ～20回以下	21回以上	2回以上 【再掲】	合計
会員数(人)	404,838	240,993	117,841	25,135	61,155	31,936	1,634	478,694	883,532
対前年 増減数	21,305	21,969	16,830	3,079	6,929	5,066	518	54,391	75,696
構成比	45.8%	27.3%	13.3%	2.8%	6.9%	3.6%	0.2%	54.2%	/

令和元年度 献血Web会員(ラブラッド会員) 献血回数別実献血者数

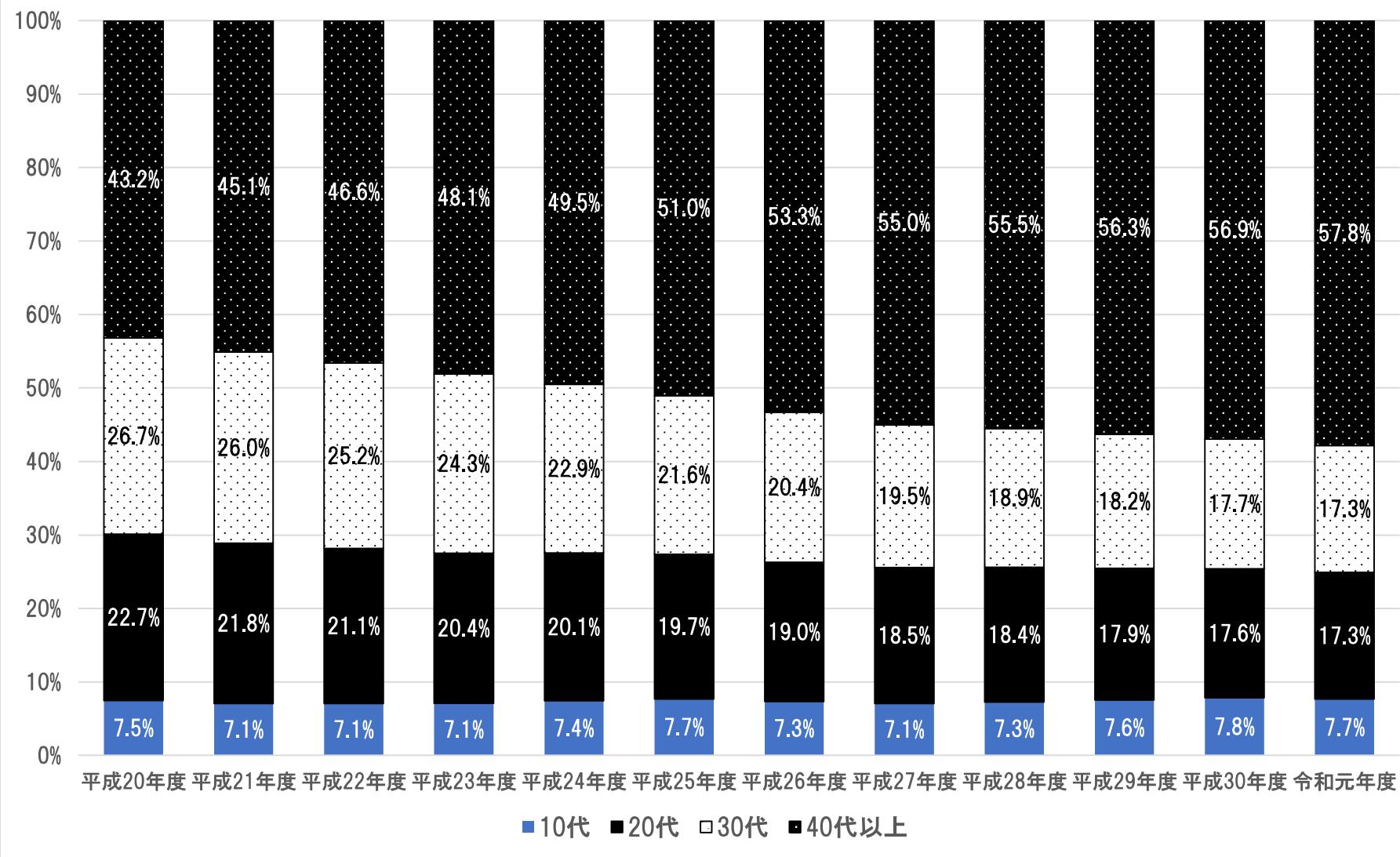
	献血回数								
	1回	2回	3回	4回	5回以上 ～10回以下	11回以上 ～20回以下	21回以上	2回以上 【再掲】	合計
会員数(人)	500,751	298,436	139,274	31,046	73,581	39,123	2,290	583,750	1,084,501
対前年 増減数	95,913	57,443	21,433	5,911	12,426	7,187	656	105,056	200,969
構成比	46.2%	27.5%	12.8%	2.9%	6.8%	3.6%	0.2%	66.1%	/

献血Web会員サービス「ラブラッド」会員・非会員別献血協力状況(年代別平均献血回数)





年代別実献血者数(構成比)



献血セミナー実施状況について(平成29年度から令和元年度)

平成29年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
小学生	113	74.3%	8,912	84.0%	145	112.9%	5,562	88.0%	258	92.0%	14,474	85.5%
中学生	178	85.4%	23,215	84.3%	83	152.9%	449	113.7%	261	99.3%	23,664	84.8%
高校生	801	126.0%	167,675	136.7%	138	129.0%	2,098	97.9%	939	126.5%	169,773	136.0%
専門学生	102	112.1%	10,142	109.7%	70	100.0%	1,481	99.9%	172	106.8%	11,623	108.4%
大学生	302	142.5%	17,992	115.0%	242	111.5%	2,816	114.9%	544	126.8%	20,808	115.0%
その他	598	126.4%	26,247	131.4%	153	145.3%	4,182	171.0%	751	129.9%	30,429	135.7%
合計	2,094	118.2%	254,183	123.6%	831	121.8%	16,588	108.9%	2,925	119.2%	270,771	122.6%

平成30年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
小学生	111	98.2%	7,422	83.3%	189	130.3%	5,219	93.8%	300	116.3%	12,641	87.3%
中学生	191	107.3%	21,555	92.8%	106	127.7%	682	151.9%	297	113.8%	22,237	94.0%
高校生	834	104.1%	169,107	100.9%	127	92.0%	2,323	110.7%	961	102.3%	171,430	101.0%
専門学生	127	124.5%	10,474	103.3%	52	74.3%	1,454	98.2%	179	104.1%	11,928	102.6%
大学生	293	97.0%	18,007	100.1%	255	105.4%	2,763	98.1%	548	100.7%	20,770	99.8%
その他	594	99.3%	24,875	94.8%	207	135.3%	4,134	98.9%	801	106.7%	29,009	95.3%
合計	2,150	102.7%	251,440	98.9%	936	112.6%	16,575	99.9%	3,086	105.5%	268,015	99.0%

令和元年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
小学生	98	88.3%	6,739	90.8%	133	70.4%	4,155	79.6%	231	77.0%	10,894	86.2%
中学生	110	57.6%	12,012	55.7%	112	105.7%	679	99.6%	222	74.7%	12,691	57.1%
高校生	792	95.0%	153,477	90.8%	126	99.2%	2,013	86.7%	918	95.5%	155,490	90.7%
専門学生	102	80.3%	10,098	96.4%	51	98.1%	1,258	86.5%	153	85.5%	11,356	95.2%
大学生	335	114.3%	17,730	98.5%	229	89.8%	2,611	94.5%	564	102.9%	20,341	97.9%
その他	513	86.4%	21,817	87.7%	246	118.8%	4,895	118.4%	759	94.8%	26,712	92.1%
合計	1,950	90.7%	221,873	88.2%	897	95.8%	15,611	94.2%	2,847	92.3%	237,484	88.6%

若年層の献血者について

- | | |
|--------------------------------|----------|
| 1 令和元年度における高校生献血の現状について..... | 1P・2P |
| 2 16歳～18歳 初回献血者実績について..... | 3P |
| 3 職業別・採血種類別延べ献血者数(10～30代)..... | 4P・5P・6P |

令和元年度における高校生献血の現状について

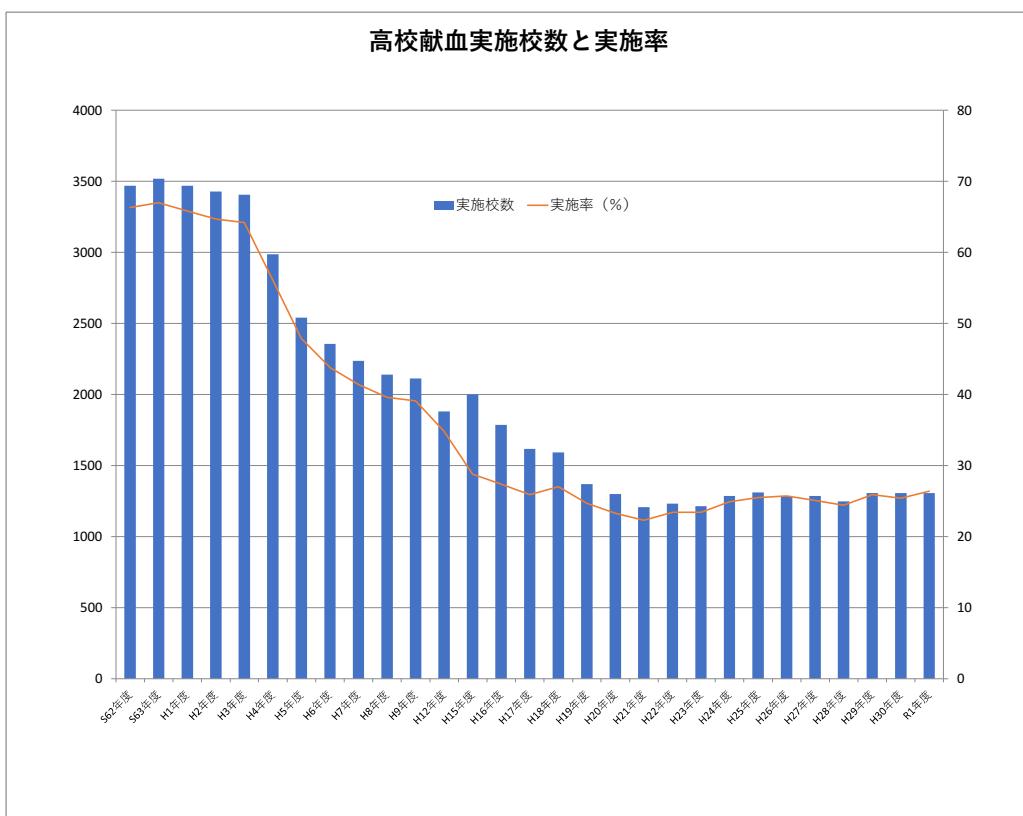
(1)献血実績について

令和元年度における高校生の献血者数は、121,268人（前年度比99.8%）であった。また、献血場所別の献血者数については、献血バス・出張採血が66,877人（前年度比100.0%）、献血ルーム・血液センターが54,391人（前年度比99.6%）であった。

（表1）高校生の献血場所別の献血者数（単位：人）

	献血バス 出張採血	献血ルーム 血液センター	合計
平成25年度	73,374	64,815	138,189
平成26年度	68,578	55,896	124,474
平成27年度	63,720	49,477	113,197
平成28年度	61,899	48,546	110,445
平成29年度	64,404	50,930	115,334
平成30年度	66,859	54,607	121,466
令和元年度	66,877	54,391	121,268

（グラフ1）高等学校での献血実施状況について



※令和元年度の高等学校設置数は全国で4,946校中、献血実施校数は1,286校（前年度比98.5%）であった。
※厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告していたため、平成4年度、平成11年度、平成13年度、平成14年度は、調査未実施である。

(2)高校生の初回献血者数について

ア 献血実施について

血液製剤の医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで400mL全血献血を基本とする。また、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、若年層の献血推進を実施している。

(表2)初回献血者の実績(単位:人)

	200mL献血			400mL献血			合計
	16歳男女	17歳女性	計	17歳男性	18歳男女	計	
平成25年度	27,337	13,983	41,320	13,609	15,736	29,345	70,665
平成26年度	22,285	10,798	33,083	14,062	15,787	29,849	62,932
平成27年度	19,485	9,272	28,757	14,608	16,088	30,696	59,453
平成28年度	17,709	8,972	26,681	14,917	17,179	32,096	58,777
平成29年度	19,104	10,126	29,230	15,924	18,368	34,292	63,522
平成30年度	20,425	10,297	30,722	15,837	18,735	34,572	65,294
令和元年度	19,787	10,128	29,915	15,213	18,366	33,579	63,494

※17歳男性の400mL献血は、平成23年度より採血基準変更での導入となる。

※高校生の各受入施設の献血者数及び初回献血者数ともに、平成30年度は平成29年度に引き続き増加した。

イ 献血セミナーの実施について

平成24年から「学校における献血に触れ合う機会の受け入れについて(現:「高等学校等における献血に触れ合う機会の受け入れについて」)」を厚生労働省から文部科学省に通知し、学校関係者等に対して、日本赤十字社が実施している献血セミナー等を積極的に受け入れてもらえるよう、文部科学省を通じ、各都道府県あての依頼を令和元度も行った。横断的な依頼は、学校教育の中で献血思想を普及啓発する上で重要なとなる。

更に文部科学省、都道府県、教育委員会及び献血推進協議会等の関係機関との連携協力が献血セミナーを推進する上で極めて重要である。

また、同通知により献血セミナー全体の参加人数が飛躍的に増加している。ただし「高校での献血セミナー」に焦点を当てるに平成27年度に参加人数が減少したが、平成28年度からは大幅に増加している。

令和元年度の献血セミナー全体の参加人数は平成30年度と比較すると減少したが、新型コロナウイルスの影響により、実施を中止したことが大きく影響している。高校内での献血実施の推進はもとより、行動の契機となるよう「献血セミナー」の学校教育へ働きかける体制作りが必要である。

平成28年度からは、学生献血推進ボランティア(学生献血推進協議会等)による献血セミナーを開始した。

(表3)献血セミナー参加者数

全体	参加人数	前年度比
平成25年度	151,037	122.6%
平成26年度	158,197	104.7%
平成27年度	179,785	113.6%
平成28年度	205,682	114.4%
平成29年度	254,183	123.6%
平成30年度	251,440	98.9%
令和元年度	221,873	88.2%

高校生	参加人数	前年度比
平成25年度	91,285	128.7%
平成26年度	107,823	117.4%
平成27年度	106,135	98.4%
平成28年度	122,678	115.6%
平成29年度	167,675	136.7%
平成30年度	169,107	100.9%
令和元年度	153,477	90.8%

16歳～18歳 初回献血者実績について

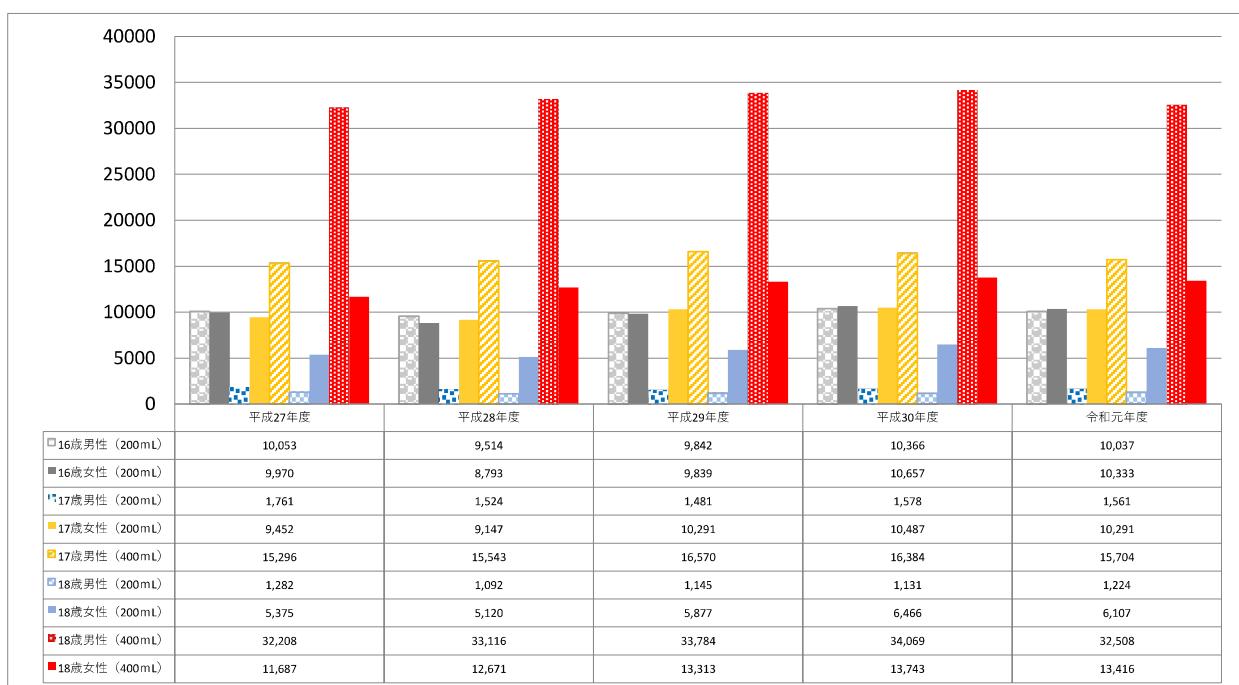
(表4)200mL初回献血者(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比
16歳男性	12,754	12,019	12,536	13,762	13,430	97.6%
	初回	10,053	9,514	9,842	10,366	96.8%
	初回割合	78.8%	79.2%	78.5%	75.3%	74.7%
16歳女性	13,673	12,041	13,485	15,038	14,549	96.7%
	初回	9,970	8,793	9,839	10,657	10,333
	初回割合	72.9%	73.0%	73.0%	70.9%	71.0%
17歳男性	2,688	2,353	2,252	2,410	2,604	108.0%
	初回	1,761	1,524	1,481	1,578	1,561
	初回割合	65.5%	64.8%	65.8%	65.5%	59.9%
17歳女性	19,351	18,320	19,643	21,097	21,157	100.3%
	初回	9,452	9,147	10,291	10,487	10,291
	初回割合	48.8%	49.9%	52.4%	49.7%	48.6%
18歳男性	1,789	1,513	1,593	1,583	1,693	106.9%
	初回	1,282	1,092	1,145	1,131	1,224
	初回割合	71.7%	72.2%	71.9%	71.4%	72.3%
18歳女性	9,805	8,777	9,941	10,967	10,964	100.0%
	初回	5,375	5,120	5,877	6,466	6,107
	初回割合	54.8%	58.3%	59.1%	59.0%	55.7%

(表5)400mL初回献血者(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比
合計	17歳男性	23,426	23,489	24,323	24,788	24,209
	初回	15,296	15,543	16,570	16,384	15,704
	初回割合	65.3%	66.2%	68.1%	66.1%	64.9%
	18歳男性	51,089	51,728	52,076	53,274	51,380
	初回	32,208	33,116	33,784	34,069	32,508
	初回割合	63.0%	64.0%	64.9%	64.0%	63.3%
	18歳女性	21,218	21,365	22,037	22,550	22,438
	初回	11,687	12,671	13,313	13,743	13,416
	初回割合	55.1%	59.3%	60.4%	60.9%	59.8%

(グラフ2)男女別・採血種類別初回献血者数



職業別・採血種類別延べ献血者数(10~30代)

(表6)10代 職業別・採血種類別延べ献血者数(単位:人)

高校生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	86,634	84,772	90,847	73,470	77,578	79,693	64,861	54,003	49,483	53,644	57,882	57,757
400mL	24,352	24,557	26,733	45,611	51,078	51,542	53,449	53,641	54,152	56,258	57,704	56,926
PPP	4,934	4,464	3,189	2,987	3,524	3,098	2,298	2,444	3,153	2,740	3,198	4,104
PC+PPP	2,914	2,796	2,707	2,234	2,512	2,491	2,311	1,750	1,491	1,257	1,161	948
合計	118,834	116,589	123,476	124,302	134,692	136,824	122,919	111,838	108,279	113,899	119,945	119,735

大学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	13,157	13,029	13,656	12,203	12,605	14,214	10,363	7,586	6,623	7,393	9,046	8,887
400mL	59,088	58,822	61,017	59,210	60,911	62,385	60,499	59,190	60,875	61,771	63,476	62,567
PPP	12,210	11,684	8,106	6,997	7,430	6,954	5,431	6,035	7,428	6,166	6,965	8,931
PC+PPP	9,103	7,975	7,623	6,415	6,346	6,340	5,724	4,700	3,734	3,252	2,908	3,281
合計	93,558	91,510	90,402	84,825	87,292	89,893	82,017	77,511	78,660	78,582	82,395	83,666

その他学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	8,477	7,746	8,265	7,684	7,830	7,951	5,433	3,631	3,095	3,479	3,730	3,702
400mL	31,839	28,765	30,407	29,036	29,709	30,372	28,980	28,048	27,062	26,753	25,463	23,960
PPP	6,492	5,607	3,841	3,233	3,277	3,224	2,379	2,506	2,902	2,587	2,957	3,189
PC+PPP	4,306	3,391	3,234	2,561	2,699	2,784	2,275	1,859	1,568	1,277	996	1,131
合計	51,114	45,509	45,747	42,514	43,515	44,331	39,067	36,044	34,627	34,096	33,146	31,982

その他	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	6,175	6,093	5,381	4,750	4,673	4,403	3,366	2,420	2,181	2,240	2,494	2,390
400mL	30,041	29,054	26,893	25,397	25,338	25,921	26,530	27,376	26,647	26,729	25,816	25,393
PPP	2,922	2,733	1,830	1,589	1,691	1,605	1,217	1,250	1,775	1,466	1,468	1,818
PC+PPP	2,375	2,208	2,046	1,644	1,722	1,843	1,697	1,368	1,224	946	857	814
合計	41,513	40,088	36,150	33,380	33,424	33,772	32,810	32,414	31,827	31,381	30,635	30,415

合計	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	114,443	111,640	118,149	98,107	102,686	106,261	84,023	67,640	61,382	66,756	73,152	72,736
400mL	145,320	141,198	145,050	159,254	167,036	170,220	169,458	168,255	168,736	171,511	172,459	168,846
PPP	26,558	24,488	16,966	14,806	15,922	14,881	11,325	12,235	15,258	12,959	14,588	18,042
PC+PPP	18,698	16,370	15,610	12,854	13,279	13,458	12,007	9,677	8,017	6,732	5,922	6,174
合計	305,019	293,696	295,775	285,021	298,923	304,820	276,813	257,807	253,393	257,958	266,121	265,798

(表7)20代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	6,964	6,808	6,376	6,323	6,457	6,460	4,583	3,023	2,268	1,951	1,843	2,015
400mL	72,402	72,030	73,083	73,978	76,306	77,663	77,964	78,825	79,136	80,101	77,829	77,760
PPP	16,827	15,813	12,257	12,298	11,516	10,227	8,003	8,819	10,469	9,444	10,147	12,016
PC+PPP	18,134	16,832	16,538	14,335	14,020	13,654	12,356	10,021	8,751	7,495	6,267	5,926
合計	114,327	111,483	108,254	106,934	108,299	108,004	102,906	100,688	100,624	98,991	96,086	97,717

会社員	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	55,487	50,102	48,053	44,618	41,643	39,038	28,339	18,550	13,631	12,004	11,179	10,815
400mL	325,446	326,086	327,947	318,902	312,905	300,872	296,385	292,842	285,824	276,394	267,217	265,022
PPP	98,053	98,648	75,448	71,709	69,116	59,851	46,858	49,938	58,066	51,223	55,029	64,375
PC+PPP	85,745	84,004	83,542	73,027	70,089	67,044	60,114	50,265	41,137	35,398	30,432	28,806
合計	564,731	558,840	534,990	508,256	493,753	466,805	431,696	411,595	398,658	375,019	363,857	369,018

高校生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	237	270	270	190	246	169	151	102	78	100	91	98
400mL	1,006	1,070	1,213	1,026	969	893	1,142	1,006	1,017	1,115	1,155	1,166
PPP	290	307	219	165	149	143	63	49	68	74	90	91
PC+PPP	232	232	190	130	94	93	56	53	46	21	28	33
合計	1,765	1,879	1,892	1,511	1,458	1,298	1,412	1,210	1,209	1,310	1,364	1,388

大学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	17,753	17,408	17,908	16,801	16,862	17,141	12,531	9,019	7,143	7,497	8,162	8,484
400mL	107,910	110,508	116,526	114,195	116,323	115,658	110,079	105,144	102,997	103,822	103,629	105,435
PPP	42,409	41,770	31,403	28,542	27,719	24,409	18,282	18,960	22,009	19,166	20,558	25,686
PC+PPP	39,579	37,207	36,813	31,123	29,840	27,929	24,228	19,558	15,765	13,550	12,174	11,884
合計	207,651	206,893	202,650	190,661	190,744	185,137	165,120	152,681	147,914	144,035	144,523	151,489

その他学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	7,820	6,997	6,651	5,738	5,853	5,757	4,019	2,739	2,042	2,093	2,179	2,140
400mL	39,045	36,775	36,608	34,337	33,641	32,472	31,356	29,925	28,574	27,521	26,385	25,769
PPP	16,327	14,306	9,980	8,261	7,743	6,428	4,738	4,531	5,019	4,348	4,634	5,435
PC+PPP	13,063	11,438	10,560	8,030	7,392	6,791	5,761	4,237	3,227	2,621	2,353	2,091
合計	76,255	69,516	63,799	56,366	54,629	51,448	45,874	41,432	38,862	36,583	35,551	35,435

主婦	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	3,553	3,410	3,171	3,001	2,660	2,387	1,604	930	593	437	434	383
400mL	6,521	6,508	6,509	6,216	5,684	5,068	4,683	4,423	3,874	3,495	3,251	3,056
PPP	3,731	3,791	2,773	2,410	2,298	1,985	1,485	1,360	1,489	1,086	960	1,050
PC+PPP	1,795	1,739	1,638	1,410	1,303	1,225	900	693	508	390	327	257
合計	15,600	15,448	14,091	13,037	11,945	10,665	8,672	7,406	6,464	5,408	4,972	4,746

自営業	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	405	410	429	377	377	372	246	178	93	84	94	106
400mL	6,142	6,112	6,094	5,700	5,587	4,987	4,791	4,676	4,511	4,111	3,788	3,785
PPP	1,160	1,166	886	1,025	1,000	866	630	752	914	717	713	944
PC+PPP	1,587	1,475	1,556	1,499	1,436	1,274	1,095	939	705	552	492	505
合計	9,294	9,163	8,965	8,601	8,400	7,499	6,762	6,545	6,223	5,464	5,087	5,340

その他	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	16,322	15,250	14,608	12,874	11,715	10,586	7,141	4,117	2,769	2,445	2,140	2,050
400mL	68,866	69,446	71,150	68,541	64,129	59,461	56,656	54,196	49,705	46,278	42,338	40,253
PPP	37,931	36,843	27,900	24,868	22,562	19,255	14,432	14,746	16,142	13,361	13,332	14,580
PC+PPP	33,969	32,171	32,515	26,585	25,145	22,886	19,990	16,080	12,756	10,043	8,323	7,285
合計	157,088	153,710	146,173	132,868	123,551	112,188	98,219	89,139	81,372	72,127	66,133	64,168

合計	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014
----	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

(表8)30代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	9,146	8,242	8,007	7,170	6,418	5,600	3,671	2,088	1,321	1,082	854	921
400mL	129,020	125,246	124,250	119,727	115,366	108,966	103,795	99,752	96,626	96,902	96,520	98,656
PPP	23,314	23,288	18,980	18,564	17,020	14,668	11,220	11,996	14,230	12,916	14,484	18,239
PC+PPP	36,883	34,496	33,683	30,158	28,830	26,546	24,486	20,240	17,243	15,923	14,239	13,410
合計	198,363	191,272	184,920	175,619	167,634	155,780	143,172	134,076	129,420	126,823	126,097	131,226

会社員	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	56,016	51,508	49,584	44,835	40,705	36,297	25,297	15,910	10,927	8,785	7,112	6,699
400mL	556,596	559,588	559,386	539,821	510,620	475,327	455,685	433,393	413,119	397,503	380,819	373,012
PPP	118,819	123,469	100,586	102,656	97,188	84,906	67,148	72,196	84,908	76,528	83,322	98,821
PC+PPP	163,772	168,481	170,592	153,759	146,034	135,722	123,640	103,650	88,716	78,437	67,938	64,598
合計	895,203	903,046	880,148	841,071	794,547	732,252	671,770	625,149	597,670	561,253	539,191	543,130

高校生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	7	5	13	4	6	4	6	6	7	3	4	6
400mL	44	52	53	45	40	43	115	115	82	104	113	99
PPP	17	20	10	4	3	2	2	2	1	1	7	8
PC+PPP	4	11	5	1	1	2	2	5	2	3	2	1
合計	72	88	81	54	50	51	125	128	92	111	126	114

大学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	95	89	76	66	61	77	51	22	18	23	22	24
400mL	743	757	797	752	819	837	842	887	904	920	860	892
PPP	305	343	256	314	296	279	243	235	261	199	227	249
PC+PPP	399	457	468	396	382	418	398	352	282	255	208	207
合計	1,542	1,646	1,597	1,528	1,558	1,611	1,534	1,496	1,465	1,397	1,317	1,372

その他学生	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	572	597	608	565	495	474	356	241	166	169	144	116
400mL	3,384	3,615	3,955	3,768	3,494	3,164	3,020	2,762	2,658	2,514	2,331	2,168
PPP	1,508	1,497	1,098	1,001	1,068	931	584	527	599	505	506	563
PC+PPP	1,492	1,358	1,426	1,319	1,174	1,001	825	620	515	338	360	352
合計	6,956	7,067	7,087	6,653	6,231	5,570	4,785	4,150	3,938	3,526	3,341	3,199

主婦	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	17,298	16,724	15,670	13,882	12,157	10,452	6,808	3,785	2,277	1,713	1,287	1,183
400mL	40,292	39,650	40,195	37,723	33,235	29,339	26,282	23,468	21,017	19,548	17,778	16,923
PPP	18,965	19,865	16,467	15,040	13,820	11,460	8,405	7,806	8,696	7,288	7,529	8,248
PC+PPP	11,803	11,277	11,938	10,400	9,465	8,357	7,269	5,756	4,510	3,677	2,900	2,538
合計	88,358	87,516	84,270	77,045	68,677	59,608	48,764	40,815	36,500	32,226	29,494	28,892

自営業	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	1,262	1,185	1,118	1,008	998	933	561	310	209	190	155	132
400mL	26,120	26,533	26,573	25,441	23,232	20,749	19,293	17,821	16,388	15,117	14,045	13,486
PPP	4,475	4,548	3,835	3,856	3,448	2,859	2,118	2,285	2,794	2,387	2,686	3,202
PC+PPP	7,550	8,117	8,360	7,173	6,623	6,003	5,224	4,127	3,487	2,960	2,640	2,444
合計	39,407	40,383	39,886	37,478	34,301	30,544	27,196	24,543	22,878	20,654	19,526	19,264

その他	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	16,410	15,469	14,794	13,143	11,455	10,115	6,601	3,727	2,341	1,737	1,336	1,200
400mL	74,893	77,370	78,178	75,437	69,859	64,377	62,112	59,182	55,460	53,373	49,999	49,162
PPP	39,049	40,396	32,933	30,650	28,620	24,999	19,102	19,809	23,205	20,602	21,992	26,036
PC+PPP	42,463	43,398	44,741	39,614	36,996	34,544	31,938	27,067	23,077	20,167	17,703	16,115
合計	172,815	176,633	170,646	158,844	146,930	134,035	119,753	109,785	104,083	95,879	91,030	92,513

合計	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018	令和元年 2019
200mL	100,806	93,819	89,870	80,673	72,295	63,952	43,351	26,089	4,993	13,702	10,914	10,281</td